The Kansai University Bulletin

Osaka, November 15th, 1927—No. 54

關西大學報

昭和二年　第五十四號　十一月十五日發行

The Second Annual "University Festival" at Senriyama

第二回「大學祭」の賑ひ

大阪

關西大學學報局

堀佐土話電番〇七五五・九四〇一

振替貯金口座大阪一二八七五番

千里山學報　第五十四號

目次

挿繪——第二回「大學祭」の賑ひ（表紙）—教職員懇親會記念撮影—來學せる高柳松一郎氏—展覽會—陪審制度模擬裁判—音樂會—優勝せる大阪外語及び市岡中學選手—大學豫科第二學年の千里山土人踊—專門部の土人首祭—校友兼松謙太郎氏と田村清吉氏—校友會東京支部總會記念寄せ書—千里山野球部部員—濱寺海岸に於ける千里山馬術部部員

獨逸大學生活概論　關西大學講師　野口正造

圓周率の數値　關西大學教授　河村信一

學内報——專務理事新任—高柳松一郎氏來講

大學祭彙報

校友の面影——兼松謙太郎氏—田村清吉氏

校友彙報

學生彙報

獨逸大學生活概論

關西大學講師　ドクトル・デル・スタートウイッセンシャフト　野口正造

本稿は去る九月二十九日本學獨逸文化研究會の席上講演せし所を基礎として多少の增補を加へたるものであるが一般諸賢に對して何等かの參考に資する事を得ば余の幸甚とする所である。

緒言

歲月流るる水の如しとか申す古諺の通り、去る大正十一年の春尙ほ淺き三月に故國を出でて後五星霜をゲーテの國ヴェトーヴェンの鄕地科學の花の咲き匂ふ所、カントの哲理の生れし國に送りしが、昨秋遂に此の思出多き國に別れを告げて再び鄕國に歸りしより以來將に一年の月日は夢の間に過ぎ去らんとし、而も既往を追懷しては感慨轉た切なるものあり茲に於てか聊か獨逸大學生活に關して余が自ら體驗せし所を基調としてお話し以て將來大いに學ぶ所あらんとする向學諸子の參考に資せんと欲する次第である。

一

惟ふに歐洲最古の大學としては人も知る北伊太利のボロニア神學校を劈頭として、之に次ぐにボヘミアの地（現チェックスロバカイ）の首府プラーグの大學を以てし、更に南獨ラインの支流溶溶たるネッカの河畔に聳ゆる古城の麓に巢造るハイデルベルヒの大學を加へて世に歐洲の三古大學と稱せらるるに至りしが中にも此のハイデルベルヒ大學は創立の當初より既に立派なる近代的大學の體系と組織とを具備して、學燈綿綿として絕ゆる事無く、曾てはフィッシャー、ヴインデルバンド、ラーバント等近代に於てはリッケルト、マツクスウェーバー等幾多の世界的名敎授を出し、哲學界に於ては所謂「西南學派」の叢淵地として世界の學界を風靡し、ネッカの水の流るる所、苔蒸す古城の廢墟に鳴る松籟の響永久に盡きず、常に學究者の憧憬の地として、今日に至るも尙ほ其の詩的風光の美と共に學術的價値を宇内に認められて居るのである。其の後歐洲の各地には人文の發達と經濟的社會的の進歩と共に幾十の大學が設立せられたのであるが、殊に科學を以て經世立國の基礎なりとして之を尊重し、且つ實行して居る獨逸に、他の歐洲諸國の何れに比しても、より多くの又内容充實せる大學が創設せられたる事は、何人も容易に首肯し得る所なる可く、此の兩者が因果關係と成りて、遂に十九世紀より二十世紀にかけての獨逸文化を創成確立するに至つたのである。茲に於てか余は此等を解剖して獨逸文化の誘因を探らんと欲する者である。

現在に於て存在する獨逸の所謂綜合大學（Universität）は二十四校であつて其れを設立の年代順に列擧すれば左の如くである。

（大學名）	（設立年時）
ハイデルベルヒ（Heidelberg）	一三八六
ヴュルツブルグ（Wuerzburg）	一四〇二
ライプチッヒ（Leipzig）	一四〇九
ローストック（Rostock）	一四一九
グライフスバルト（Greifswald）	一四五六
フライブルヒ（Freiburg）	一四五七
ミュンヘン（München）	一四七二
チュービンゲン（Tübingen）	一四七七
マーブルヒ（Marburg i. H.）	一五二七
ケーニッヒスベルヒ（Koenigsberg）	一五四四
イェーナ（Jena）	一五五八
ギーセン（Giessen）	一六〇七
キール（Kiel）	一六六五
ハレ（Halle a. S.）	一六九四
ブレスラウ（Breslau）	一七〇二
ゲッチンゲン（Goetingen）	一七三七
エルランゲン（Erlangen）	
ミュンスター（Muenster）	一七八六
ベルリン（Berlin）	一八一〇
ブラウンスベルグ（Braunsberg）	一八一八
ボン（Bonn）	一八一八
ハンブルヒ（Hamburg）	一九一九
ケルン（Koeln）	一九一九
フランクフルト・アム・マイン（Frankfurt a. M.）	一九二〇

獨逸は一八七〇年より七一年に至る普佛戰爭の勝利に依つてアルサス、ローレンを獲得せしと同時に彼の有名なるストラスブルグ大學をも領有する事が出來たのであるが、今次の世界大戰の結果アルサスローレンを再び佛國に割讓返還すると同時に同大學をも亦佛國の所有に歸せしめなければならなかつた。故に獨逸の大學數は開戰當時の二十二校より二十一校に減じたが其の後間もなく漢堡の殖民專門學校及びケルンの高等商業學校が昇格して大學と成り更にフランクフルト・アム・マインにも新に大學が設立せられて法律・經濟學・醫學等の方面に於ては寧ろ他の多くの古參大學をも凌駕するの觀を呈するに至つた。斯くして今日に於ては上述の如く合計二十四校となつたのである。是れは恰も昔ナポレオ

ン戰爭の鬱辱を晴らすに科學（Wissenschaft）の力を以てせんとし普魯西が幾多の大學を增設してヘーゲルやフィヒテ、ワグナー等の碩學を出し、克く十九世紀末の盛觀を齎らしたのと甚だ酷似する所があつて、怖らく現時の爲政當局者の腦中には來る可き時代には更により以上の卓越せる科學の力を以て今日の屈辱を雪ぎ、新獨逸國の建設を圖るの希望と抱負竝に計畫とが建てられて居る事であらうと信ずる。

二

次に獨逸大學の組織に就て申上ぐれば獨逸の大學は全部國立（Staatlich）であると言ひ得る。然し茲に注意しなければならない事は國立と言つても直接獨逸共和國政府（Reichsregierung）に屬するに非ずして、各聯邦政府若しくは自治團體の管理に屬するものであつて例へば伯林大學やゲッチンゲン大學等は普魯西國立であつてハンブルヒ大學はハンザ自由市に又ミュンヘン大學はバイエルン聯邦州に屬するが如く我國の觀念を以ては一寸諒解し難い事かと思ふ。何となれば國家構成そのものが我が國の如き統一的國家（Einheitlicher Staat）に非ずして國家學や國際法上所謂聯邦國家（Bundesstaat）であつて、各聯邦國家は外部に對しては唯一の國家として存立すれ共內部に在りては聯邦各國は獨立して諸般の政治を行ふの制度であつて其の例を他に索むれば北米合衆國や瑞西の如きも其の一例である而して概念的に考察するに獨逸の大學は非常に官僚的な感じがするが實際に於ては日本の官立大學の如く受動的なものでなく純粹に學問の獨立と學界の自由との點に於て中央政府の制肘を受くる事無きのみならず所屬聯邦政府の干涉を受くる事も比較的少く何處迄も「自主的」であるのが其の特徵であると言ひ得るであらう。學科、教授の任免の如きも勿論大學の內部に於て決定し各聯邦國文部省の名に於て之れを行ふのである。隨つて大學が反政府運動の政治機關と成るが如き事が往往にして生ずる。

例へば獨逸は戰後の革命以來社會民主黨の政府と成り專らデモクラティックな政綱に向つて努めんとするに對して多くの大學は其の忠實なる讃美者に非らざるのみならず却つて反動政治の急先鋒たるの感がある。例へば今日迄多くの社會主義的思想家又は政治家の暗殺事件の裏には必ず大學の學生が犯人として參加せる事實は全く吾人の想像以外とする所にして彼の近代の大政治家として殊に戰後獨逸復興問題の解決を双肩に荷つて居たラーテナウ氏遭難の際の如きも（一九二二年六月末）矢張り左樣であつたのである。此等は余りに極端なる例としても私が實際經驗した一例を申上ぐれば一昨年二月末日獨逸共和國第一代の大統領エーベルト氏が逝去された際に私が學んで居たゲッチンゲンの大學よりは別に何等特別哀悼の辭をも送らざりしに反しその大統領補缺選擧の結果ヒンデンブルグ元帥が愛國黨より推されて大統領に當選するや總長は早速長文の電報を以て祝辭を呈したのであるが此の不公平な處置が眞理の叢淵たる可き學府の中より起つた事が公となつて當時大分同地の新聞紙上論難の一題となつた事があつて此の一例を以て觀るも獨逸アカデミカー氣分の一半を想像する事が出來るであらう。勿論之を教授各人に就て區別すれば右黨の群の外に左黨の人も無いではない。然し其の比例は到底語るに足らない程度であらう。之に關係して私が實際目擊した今一つの面白い例を茲にお話し申し上げよう。それは矢張りヒンデンブルグ元帥が大統領に當選された時の事で恰も元帥の大統領就任宣誓式が伯林に於て行はるるといふ當日であつた。此の日吾等の經濟學擔任であるO老教授は氏の講義を爲す可く二十三番の大講堂に入つて來られたのであるが氏は先づ講義開始の前に『諸君、今日は我が祖國の護主ヒンデンブルグ元帥が大統領就任の宣誓式を行はるる日である、我等は我が祖國の爲に又元帥の爲に其の幸福を祝さうでは無いか』と云つて自から提唱して學生に起立を求め教授自ら音頭を取つて『ヒンデンブルグ元帥萬歲』を三唱されたのであつて學生は皆喜んで之に應ずると共に之を實見して居た私共は實に感慨無量に堪えなかつた。

獨逸人のほんとうに胸の中に秘めて居る心持は平常の時には容易に見られないけれ共斯かる時に眞に僞らざるその告白を認識する事が出來るのである。其の時は經濟學の講義を聞く可く獨逸人學生の外に可成多くの外國人學生も居たのであるが皆一樣に異樣な眼を見張つて居た。殊に舊聯合國民たる外國人學生には此の「ホー、ホー、ホー」の叫びが如何に響いた事であらう、私し自身も其の瞬間獨逸共和國に居る感じは失せて矢張り昔のプロシア帝國にでも居るかの樣な氣分に襲はれた。更に面白いのは大學の大講堂の入口正面に、ヒンデンブルグ元帥の軍服姿の胸像がすつと以前から安置せられてある事で（元帥が大統領に就任せられない數年以前から）我國の大學等では容易に見られない事であらう。例へば我國の大學講堂の眞正面に大山元帥の胸像を安置して居る大學があるであらうか。若しもありとして今日の學生は何と之を見るであらうか。實に面白い對照であつて之を見ても尙ほ獨逸に於ける英雄崇拜的氣分の旺盛なる事を見る事が出來るであらう。獨逸は一時政體は變つても其の精神は尙ほ根底から覆がへされて居ない事か明に知り得るのである。

勞働者の多くの中には尙ほ戰後の主潮たる民主的傾向の支持者である者も多いが然し勞働者の團體の中にも左黨に對抗して極右黨に屬し專ら愛國主義に溢れて居る黨派もあつて其の主宰者は例の有名なヒットラー氏と昔のルーデンドルフ將軍とである。

而して大學は前にも申上げた通り先づ大體に於て社會主義、民主主義に對する反動派の巢窟と云つて宜しからう。伯林等の樣な大都會では大學生の眞の氣分を味ふといふ事は仲仲出來ないが實際の大學專門の町に來て見て初めて彼等の眞の生活や氣分を赤裸裸に、そして正確に觀察する事が出來るのである。例へば私しが日本を出發する時は「戰前獨逸の學生は盛んに決鬪を行つて尙武耐忍不撓不屈の精神を鍛へ其の狀恰も我が封建時代に於ける武士の眞劍勝負を以て其の膽を練りしに酷似する所ありしが戰後此等の傳統的習風は法律を以て禁止せられ、昔の若き血潮の湧くが如き氣分に接する事は出來なくなつた」と聞いて居り、伯林の大學に居る時迄は矢張り「然るか」と思つて居たが、一度ゲッチンゲンや他の大學所在地に來て見るや豫想は全く裏切

られて學生の生活は殆んど戰前と變つて居ない事を知る事が出來た。學生は各各出身鄉國又は特殊の目的を以て一つの團體的組合を形造つて居て之に所屬する一の倶樂部兼寄宿舍として實に立派なそして私共の眼から見ては贅澤であると思はれる程整備した大きな獨立の家屋を有し、朝夕此のハイムに集つては思想政治を論じ又相互に盛んに體育を奬勵實行しビールを飲んでは快哉を叫び又互に決鬪を行つては精神及勇氣の鍛練に資するといふ調子で其の元氣潑溂たる事は是非我國の青年學生諸君に見せてやり度い位である。而して此れをフェルビンヅングの生活と云つて居るのであるが然し茲に注意せなければならない事は此のフェルビンヅングの組織は一面に於て如何にも蠻的の樣であるが他面に於て實に嚴格な規則が定められて居て常に昔の騎士的精神（Ritterlicher Geist）を忘れてはならないのである。若しも此の騎士的精神に反した言語動作があれば峻嚴な戒告を受け若しそれにも服せざる場合は其の會員としての資格を剝奪されて除名せられる事となり若しも一學生が此の除名處分を受くる事あれば一代の恥辱とせられて單に當該個人の恥辱なるのみならず其の會員を有して居る組合全體の不名譽とせられ恰も我が古武士の生活と酷似する所が大である。而して此處に於てか彼等の團體的社會的訓練は行はれつつあるのである。殊に戰後彼等青年の腦中には「祖國」と云ふ觀念が一層强められて來て居る。『何うしても現在の獨逸をビスマーク時代の獨逸に恢復しなければならない』とは凡ての青年の胸の中に包藏せられて居る大きなそして一致した『願望』である。

此の一致した唯一の目的の爲めに幾千萬の國民が努力する時に其の將來には必ずや大きな或る物を造り出し、或る大きな仕事を爲し遂ぐる事が出來るであらう。此の意味に於て我等は獨逸青年の心持を敢て他山の石とすべきであつて、輕輕に之を棄つる事は出來ない。大いに研究して更に彼等の中に何物かを見出す可く努めなければならないと思ふ。話は大分横道に外れたが要するに獨逸學生の眞情は今日も尙ほ非常に愛國的な精神に充ち滿ちて居るといふ事を斷言して憚らないのである。

三

以下私は我が國の大學と趣きを異にして居る學内の制度や組織に就て順を逐ふて陳述致して見度いのである。

先づ第一に教授の實際收入に就て觀察して見るに我國の大學では定給の年俸の外に講座料として或額の支給はあるけれ共比較的少額であるが獨逸の大學では正教授は一定の俸給の外に聽講料として學生が納入する金額の三分の二は各教授の收入になるのであつて稍稍我が國とは制度を異にして居るのである。即ち當國では學生は授業料（Studiengeld）の外に聽講料（Kollege Geld）なるものを支拂はなければならない。その聽講料は各學科及び各時間に依りても異なるが更に又教授に依りても高低の相違がある。然し大體の標準は勿論定つて居るのであつて現時に於ては普通一時間持の講義が二馬克五拾片と成つて居る。例へば茲に或る教授が一週間に四時間を受持つて講義せられるとすれば學生は其教授の課目に對して一學期間十馬克をを支拂はなければならず斯くの如くして十課目一學期間に聽講する事とすれば一定の授業料以外に百馬克の聽講料を納めなければならない。殊に同じ學期間に普通の學科の外に少くとも二科目の演習に參加しなければならない事に定められて居るが演習の聽講料は普通の聽講料の二倍以上なるを例として此等全部の學生より納められたる聽講料の三分の二は各教授の所得に加へられるといふ事である。故に學生の側より其の負擔の實際を見るに授業料として一學期（半年）六十馬克の外に此等の聽講料更に强制疾病組合保險料其の他の附加料が加つて外國人は尙ほ其の上に外國人賦課金を徵收せられる事になつて居る。而して現在では此の外國人賦課金は一學期三十金貨馬克である。故に我等が一學期間に納入す可きものは何うしても二百馬克を下らないで之を一年に通じて見れば四百馬克以上と成り我國の貨幣に換算すれば大學に納むる金額のみで二百圓以上となり我が國の大學よりも餘程學修が困難である事が想像せられるであらう。私は今迄主として、法、文、經濟等の精神科學（Geistige Wissenschaft）に就て申述べたのであるが工科や理科、醫科等に於ては更に實驗費としてより多額の費用を要するのである。斯くして有名な又は興味多き學科及び必修課目の講義には學生が講堂に充滿し然らざる教授の講義には殆んど聽講者の顏を見ないといふ有樣で隨つて教授自身の收入にも多寡を生ずると共に單に教授の年功や官職を以ては如何ともする事能はず畢竟教授の講義内容に從つて自然淘汰が行はれる事になる。然し長所に短所の伴ふは世の常であるが此の制度を以つて何れの國にも直ちに應用し得るか否かに就ては其國の文化の發達及各人の道德的自覺の强弱を能く究めなければならないと思ふ、例へば獨逸が此の制度を布いて居るから我國にも直ぐ當て嵌め得ると斷定するのは速斷であらう。即ち斯うなると教授も神で無い限り或は其の收入の增加を計らんが爲めに換言すれば成る可く多くの聽講者を吸收せんが爲に當世に阿諛し又は流行的思潮の宣傳に多くの力を注ぎ努めて若き人人の反感を買はざらんとする樣な傾向に陷る事が無いとは絕對に言へないであらう。さすれば眞に學術に忠實にして眞理を說く人が却つて世に容れられないといふ事になるかも知れない。茲には單に教授のみならず之を聽講する學生自身の批判力如何も大いに關係するのである。然し長所としては各教授が嶄新な研究に力を注ぐが故に學術の進歩をより速やかにする利益があるとも言ひ得るであらうが要するに兩者を最も愼重に比較研究する必要があると私は今迄の經驗に依つて申上げ度いのである。

更に進んで外國學生に對する待遇を考察するに戰前の黃金時代には外國よりの研究學生に對しては種種の特典が與へられて居た由であるが、戰後は全く之と反對で會てフイヒテが說いた『封鎖國家の理想』を學術の範圍に迄轉用して非常な差別的待遇をさへも與へられて居るのでは無いかと云ふ感さえ抱かされた事があつた。殊に舊聯合國に屬する國民に對しては戰爭の恨み未だ脫せざるか種種の不愉快なる壓迫を加へらるる事も屢あつたのである。同じ外國人でも墺太利人や獨逸國語を母國語として使用して居る國民は、獨逸國内人

と同樣に取扱はれて居るのであるが貨幣價値下落の時代に於ては授業料、聽講料等は我等日本人が最高率を課せられて居たのであつて圖書館を使用する場合の如きも何か少し珍らしい書籍でも借り樣とすると「外國人は金持だから自分で本位買つたらよからう」と一種の皮肉を浴びせかけられ多額の保證金を預けなければ借り得ないといふ樣な經驗も私共は屢有した。然し斯くの如き實狀は恐らく年の經過と、獨逸の一般的經濟狀態及び社會狀態の安定し行くと共に輕減されるであらう。又我等はそれを衷心より希望する者である。

四

大學統制上の二大系統として國立主義及び私立主義を擧げ得るとするならば獨逸は前者を代表し、米國は後者を代表して各獨自の特徵を表はして居るものと言ひ得るであらう。而して日本は恰も兩者の折衷主義を採用して居るものと謂ふ可きである。其の根本的基礎は獨逸主義に範を採り其の發達は米國主義に據りつつあるが兩者を比較して何れを是とし何れを否とす可きかに就ては一概に結論を下す事は至難の業であつて其國國の國民性と社會狀態及び經濟狀態等に支配せらるる事少からず要するに時と所とを考慮の必須條件として顧みる必要が甚大であると私は思ふ。

日本の官立大學に於ける從來の詰込主義に對しては今少しく人間の個性を尊重して自由研究の範圍を擴める必要があるであらうが然し又自由を超脫して餘りに放任主義に走するのは當局者のみならず學生自身に於ても將來の爲め非常に考慮せなければならない事である。最近の我國の傾向としては大學教育も餘程自由的研究に力を注ぎつつあるのであるが學生の方では更に自分達の負擔を輕からしめんが爲めに試驗全廢等の運動が盛んに劃策せられつつあるとの事であるが自ら努め苦しまずして只自己の要求のみを得んとするのは餘りに勝手な要求の樣に思はれる。卽ち試驗はせずして學士の稱號と資格とは得度いと言ふのであらうが眞に各自が自覺して研究努力する人のみならば敢て考慮する必要も無いが人人は皆矢張り勞せずして功のみを收めんと欲する人間性の存する限り矢張り何等かの制限を置いて各個人の眞實なる研究を激勵するといふ事は已むを得ない事で又必要な事だと私には思はれる。

教職員懇親會記念撮影（前號學內報記事參照）

私共の經驗に依つて見ても在學時代には試驗の爲めに隨分苦しんだが、然し今になつて見ればあの時試驗の爲めに苦しんで居たから好かつたと思ふ事が屢あるのである。又獨逸等では學生はその研究に關しては全く自由に解放せられ試驗等でも非常にルーズである樣に思つて居る人が我國では少くない樣であるが之れは獨逸大學の眞情を究めない人人の考へであつて決して左樣に放漫なものではないのである。勿論何等の資格も學位も望まない人には何等の强制は無い。然し一旦何等かの資格又は學位を得んと欲する人には實に嚴重な試驗が行はれて居るのである。それには在學中に一定の必修課目と隨意課目とを聽講したといふ證明が必要であると同時にそれ等の試驗が行はれるのである。加之在學中必ず數課目の演習に參加して論文を書き之に通過したとの證明を有せなければ試驗は受けられない。演習課目數は各學部に依つても相違があるが經濟學部の資格試驗を受くるには少くとも四個の演習論文に合格した證明書（Seminarübungsschein）を有せなければ資格試驗に應ずる事は出來ない。殊に獨逸では一定の資格を有せなければ職業を求むるにも非常に困難であつて國家試驗（Staatsprüfung）の威力と云ふものは實際我等の想像以上である。故に將來此等の資格を獲得しようと思ふ學生は試驗を決して輕視しては居ない。仲仲眞面目に勉强して居るのであつて決して研究の自由と放任とを我國の當局者に於ても學生諸君自身に於ても混同せられない樣に切に私は望み度いのである。試驗制度の弊は誰れしも認めるが餘りに自由放任主義に走するのは實に考へ物である。最近我國試驗制度が寬大に成つた爲めに學生の勉强力が非常に鈍くなり學力が低下して來たといふ聲を數萬哩の海外で耳にして試驗そのものに改善の餘地ありとしても此の學力の低下と努力的精神の減少とは我が國將來の文化的發展を考ふる國民の等しく憂慮に堪えないとする所であらう。

或國家が將に興らんとする時には國民は凡てを吸收し獲得せんと欲し從つて潑剌清鮮の努力的精神を以て之を充さんと奮鬪する、其處には少しも疲勞といふ事を感じない。何となれば目的地に到達し度い、し度いと云ふ希望を以て充たされて居るから。然し少しでも疲勞を覺え成る丈け働き度く無い、努力を惜しむといふ樣になつて來ればもうその國の發展の將來には一抹の悲觀的徵象が表はれて來て居るとも云へるであらう。我等は日本國民として未だ左樣な事象を我國の中に見出し度くない。之れから愈創造（Shhaffen）の時代に向はなければならない青年が今から懶惰な氣分に浴し度がる樣な事があつては如何なる面目あつてか吾等の祖先に答へる事が出來るであらうか。より以上の潑剌たる生氣と努力とを盡くしてこそ始めて我等の文化は世界的になり得るであらう。否我等は日本文化の力を

以て全世界をしてその惠澤に據らしむ可く努力し度いものである。私は自分の過去の經驗より、現在に於てもつと深く勉强して置けばよかつたと常に悔いて居る者であるが今其の一例をお話し致すならば御承知の通り高等學校では英・獨語は私共に取つては必修課目であつたが（當時私は一部甲類英法科であつたから）佛語やラテン語は隨意科目であつた爲め必修課目は已むを得ず勉强したが隨意科目は全くやらなかつたのであるが今自ら歐洲に來て見ると何故にあの時フランス語やラテン語をも傍らに教つて居なかつたであらうか、せめて話せなくとも讀める丈けにでもなつて居れば何んなに助つたであらうにと今になつて熟熟と後悔して居る樣な次第である。實際獨逸の大學では諸教授は講義の時間にラテン語やフランス語を丁度私共が演說の場合又は論文等に漢語や漢詩を引用して孔子曰「……」又は論語に曰く「……」といふ樣に法律にでも經濟にでも非常に屢引用せられるのであるが、知らない者は唯ぽんやりとして馬耳東風と聞き流して了はなければならない。此の嚙みしめればしむる程味の出て來る可き名句名辭を聞く事の出來ない者は實際遺憾千萬を嚙んでも足りない位である。獨逸では大學教育を受くる人には既に中學校高等學校の時代からラテン語、希獨語、フランス語は必修科目として教へられて居るのである。

五

さて獨逸に於て尙ほ一つ我が國と異つた特殊の現象は婦人に對する獨立の大學組織が無い事である。卽ち女子が大學程度の高等教育を

（第十七頁へ續く）

圓周率の數値（續）

關西大學教授　河村信一

七

（前號よりの續き）

Thomas Fautat De Lagny(1660—1734) は

$$\arctan\frac{1}{\sqrt{3}}=\frac{\pi}{6}$$

の公式を用ひ小數點下百二十七位迄計算し、其結果は一七一九年に巴里學會に報告された

G. Vega は

$$\frac{\pi}{4}=5\arctan\frac{1}{7}+2\arctan\frac{3}{10}$$

の公式から得られる級數に依て百四十位迄計算した。

Dase は

$$\frac{\pi}{4}=\arctan\frac{1}{2}+\arctan\frac{1}{5}+\pi\arctan\frac{1}{8}$$

を用ひ二百位迄計算した。

Rutherford は

$$\pi=4\arctan\frac{1}{5}-\arctan\frac{1}{70}+\arctan\frac{1}{99}$$

を使用した。

Hutton は一七七六年 Phil. Trans 中に次の級數を與へて居る。これは急速收斂級數である。

$$\pi=8\arctan\frac{1}{3}+4\arctan\frac{1}{7}$$

$$=2.4\left\{1+\frac{2}{3}\cdot\frac{1}{10}+\frac{2.4}{3.5}\frac{1}{10^3}+\cdots\cdots\right\}$$

$$+.56\left\{1+\frac{2}{3}\cdot\frac{2}{100}+\frac{2.4}{3.5}\left(\frac{2}{100}\right)^2+\quad\right\}$$

本式は又一七九三年 Euler が其 Nova acta 中に發表せるものである。

Glaisher は次の諸式を與へて居る。（Quart. Journ. Math., vol. xii)

$$\pi=3\sqrt{3}\left(1-\frac{1}{2}+\frac{1}{4}-\frac{1}{5}+\frac{1}{7}-\frac{1}{8}+\cdots\cdots\right)\qquad(甲)$$

$$\pi=\frac{3\sqrt{3}}{2}\left(1+\frac{1}{2}-\frac{1}{4}-\frac{1}{5}+\frac{1}{7}+\frac{1}{8}+\cdots\cdots\right)\qquad(乙)$$

$$\pi^2=9\left(1+\frac{1}{3^2}+\frac{1}{7^2}+\frac{1}{11^2}+\cdots\right)\qquad(丙)$$

註　$\cot x=\frac{1}{x}+\frac{1}{x+\pi}+\frac{1}{x-\pi}+\frac{1}{x+2\pi}+\frac{1}{x-2\pi}+\cdots\cdots\cdots\ (C)$

及び　$\operatorname{cose} x=\frac{1}{x}-\frac{1}{x+\pi}-\frac{1}{x-\pi}+\frac{1}{x+2\pi}+\frac{1}{x-2\pi}-\cdots\cdots\cdots\ (D)$

の二式に於て $x=\frac{\pi}{n}$ と置けば

$$\pi=n\tan\frac{\pi}{n}\left\{1-\frac{1}{n-1}+\frac{1}{n+1}-\frac{1}{2n-1}+\frac{1}{2n+1}\cdots\cdots\right\}$$

$$\pi=n\sin\frac{\pi}{n}\left\{1+\frac{1}{n-1}-\frac{1}{n-1}-\frac{1}{2n-1}+\frac{1}{2n+1}\cdots\cdots\right\}$$

此の式中に於て $n=3$ とすれば(甲)(乙)の二式が得られる。又(c)式を微分して

$$\operatorname{cose} x=\frac{1}{x^2}+\frac{1}{(x+\pi)^2}+\frac{1}{(x-\pi)^2}+\frac{1}{(x+2\pi)^2}+\frac{1}{(x-2\pi)^2}\cdots\cdots$$

$x=\frac{\pi}{6}$ とすれば(丙)式が得られる。

Sylvester (Phil. Mag. 1859) は連分數

$$\frac{\pi}{2}=1+\frac{1}{1+}\ \frac{1.2}{1+}\ \frac{2.3}{1+}\ \frac{3.4}{1+}\cdots\cdots$$

を得た、之は Wallis の π の公式と同じものである。本式は始め Euler に由り與へられ (Comm. Acad. Petropol. Vol. xi) 後又 Stern に依り與へられた。(Crelle's Journ. vol.x) 次に以上諸家の發表した π の數値に關する研究の總括を表示しよう (Mr. Glaisher, Messenger of Math., ii p. 122)

年	計算者	小數點下ノ數 正數	小數點下ノ數 計算數	文献
1842	Rutherford	208	152	Trans. Roy soc. Lond., 1843. p. 283
1844	Dase	205	200	Crelle's Journ. XXVII. p.198
1847	Clausen	250	238	Astron. Nachr. XXV. col. 207
1803	Shanks	318	318	Proc. Roy. Soc., Lond., 1853. p. 273
1853	Rutherford	440	440	Ibid.
1853	Shanks	530	..	Ibid.
1853	Shanks	607	..	W. Shanks. Rectification of the Circle, London 1853
1853	Richter	333	330	Grunert's Archiv XXI. p. 119
1854	Richter	400	330	Ibid. XXII. p. 473
1854	Richter	400	400	Ibid. XXIII. P. 476
1854	Richter	500	500	Ibid. XXV. P. 472
1873	Shanks	707	..	Proc. Roy. Soc. Lond., XXXI.

八

π の値の計算に關する研究は右の外 Simpson の求積法則に基くもの Buffan, Sylvester 等の確率問題に基くもの或は前記と其出發點を異にする他の級數を用ふるもの或は和算家の獨特に發見したる天元術的解法に依るもの等がある。又 π の超越數である事に關する研究

非ユークリッド幾何學に於ける圓圍と直徑との比の研究等に就ても書くき事は少なく無いが、餘り長くなるので一先づ打切つて之等は他日に讓る事にした。

九

精確を欲するは人情である。然し人間は一面甚だ神經質でありながら、一面甚だ横着である。先の極まつたものは存外細かい處迄干渉するが、いつまでやつても限りが無いと判ると、そろそろ敬遠策を講じて手を付け無い事にする、なまじ手を付けると泥田に足の悔があると思ふと、そうつとして置くに限ると云ふ。近時の世相を見ると、かかる法則に順へる人間行爲の少なく無い事を考へさせられる餘事は措く。科學に於ても、此の如き考からであらうか、圓周率はπの字一つで全部を解決した事にしてしまつて居る。πの數値を計算して小數點以下何百位出すと云ふ事は、實に根氣があり、勇氣があり、見上げた仕事であるのに關らず、之を人夫仕事と見くびつて一笑に附する傾きがある。何も誰にも計算せよとは云は無いが、こんな肩の凝る仕事をした人には、相當の敬意を表して然るべきだと思ふ。殊に將來は微小測定學の發達につれて現今小數點下十位でよかつた計算は、二十位を要し三十位を要する樣になるであらう。否百位二百位でも尙計算上より生ずべき誤差が、測定上に甚大の影響を與へて、一層精密の計算を要する時期に到着すると考へられる。此の點からπの値を計算する事は、相當有意義の仕事であると云つて良からうが同時に、グレーゴリー流計算法の複雜を一層簡便にすべき他の方法或は全然立脚地を異にする新計算方法を制定する事も亦重要なる宿題であらう。

黎明は近づいて居る。來らんとする數年の間に於て、此の古くして新らしい問題に向つて輝かしい美しい曙光の出現を期待しつつ茲に擱筆する。

お詫び　前號掲載の數式中に但書の脱漏、符號の間違、不等號の轉向等多少の誤植が有りましたが多くは前後の關係から直ちに其の誤りである事が推察されると思ひますから別段正誤表は掲げません。發行日の切迫の爲め著者の校正を省略しましたので此點讀者に深く御詫いたします。（筆者）

秋雨

露の玉松の葉末にむすびおり今日は靜かな秋雨のふる。

陶然とわが酌む酒に秋の雨おもむきそへてふる秋の雨

茨木は百舌鳥さわになき垂穂垂り秋雨ふりて年なかばへぬ

北海道にて

俱知安の驛の灯暗うしてショボショボ雨となりにけるかな。

膽振野山ところどころに殘る雪靜かに夕の日に光り居り。

三等の夜汽車に乘りて夜もすがら煙草吸ふ吸ふ札幌近み

——今山生——

正誤　前號第十二頁「續涼秋夜話」中「草蘆參觀の人もあらずして午睡かな」の句は「草蘆三顧の云々」の誤に付き訂正致します。（編者）

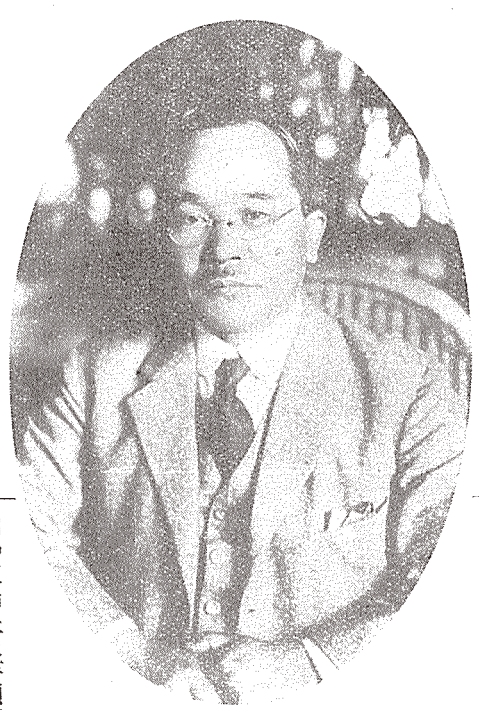
學内報

專務理事新任

本學專務理事一名は豫ねて缺員中であつたが十月二十四日開かれた理事會に於ける互選の結果本學理事喜多村桂一郎氏當選新にその任に就かれることになつた。

高柳博士來學

大阪商業會議所書記長として令名ある法學博士高柳松一郎氏は十月十八日午後千里山學舍に來學、午後二時から本館講堂に於て宮島教授紹介の下に壇上に立ち約二時間に亘つて支那の現狀につき一場の講演を試みられた。支那問題は同博士得意の題目であるだけ聽講者一同啓發せらるるところ多く、閉會後同博士は更に別室に於て教職員數氏と懇談を交へて辭去せられた。



來學せる高柳松一郎博士

大學祭彙報

展覽會

本學最大の年中行事である「大學祭」は昨年の如く秋の麗陽に輝されて山野も躍る十月二十二、三の兩日千里山學舍に於て催された。總ての準備を整へ當日を迎へた千里山學舍は自然の微笑に圍繞されて宛然たる一の樂園化してしまつた。昨年の「大學祭」にはまだ基礎工事の最中であつた本館は既に千里山學園の中心として魏然たる雄姿を丘に現はしてゐる。實に學園全體の鎭めなる哉の感に打たれざるを得ない。その東隣の本學圖書館工事も方にその大半を成就してゐる。クラブ・ハウス前の三角丘上竿頭高く掲げられたペナントの色に學園の氣は彌が上にも澄み渡り大運動場の上を方射狀に張り圍らされた萬國旗のはためきに心は躍る。各種の催ほしに携はる係り員は各部署についた。中空高く炸裂する爆竹の音に來學者の人足は次第に繁くなつた。催し物の中で先づ展覽會の模樣を略報しやう。展覽會は昨年の如く大學豫科教室に於て開かれた。二十二日は午後に至つて相當の來觀者があり、戸外に於ける催し物である運動競技會等のなかつた爲に專ら本館講堂の模擬裁判

と展覽會を觀る人が多かつた。二十三日に至つては全く千里山學舍全體が人を以て埋められ、展覽會場も全く身動きも出來ぬ盛況で、歩一歩人の流れに押されて、各陳列の特殊な趣好に驚ろきの眼をみはるばかりであつた。先づ豫科玄關を入つて左の順序で展覽會を見る。

一　學生相撲部の出品陳列
二　學生有志經濟學研究文獻出品陳列
三　學生短歌會の出品陳列
四　大學豫科第一學年の出品陳列
五　學生洋畫研究會の出品陳列
六　學生新聞學會の出品陳列
七　學生辯論部の出品陳列
八　學生獨逸文化研究會の出品陳列
九　學生射撃部の出品陳列
一〇　學生文藝研究會の出品陳列
一一　學生藝術聯盟の出品陳列
一二　學生生花研究會の出品陳列

相撲部の陳列室には六尺大の相撲取りの模型過去に於ける相撲部の歴史を彩つて一段とその榮を高めてゐる各種優勝杯、トロフィー、額、刀、練絹、優勝旗、さては四本柱に闘技の神聖を守る御幣などが所狭きまでに陳列されてあつた。特に注目を惹いたものは室の中央に作られた土俵の模型であつた。次に經濟研究會の陳列を觀る。經濟學殊に社會主義學派の文獻、ポスター等が多く一見して學生の興味の赴くところが頷けるものがあつた。次室は千里山短歌會の陳列室で、物のあはれを三十一文字に秘める大和歌の情調に室内は噎せるばかりであつた。和歌に關する文獻、短歌、雜誌各種、和歌に名ある人人の短册等、すべて高雅な詩韻を湛へてゐた。席上揮毫の設けもあつた。この室を出で階段を上つて大學豫科第一學年の出品陳列を見る。若人の趣

展覽會（大學豫科第一學年出品陳列場入口）

向になる各種の出品物は皆笑ひの種、微苦笑の母ならぬはない。彦左衞門の登城に用ひた鹽、須磨子の縊死した扱帶、日吉丸の敗いて寢た筵等等、中にも砂で描いた繪を太繩で縛つた砂繪呪縛など趣向だと思つた。のぞき眼鏡の趣向は面白いが内容の惡趣味である爲寧ろ陳列物に見た邪氣無さを愛する感が深かつた。次に學生洋畫研究會の出品陳列室がある。約七十點の出品が二室に別けて陳列してあつた。繪の稚巧は暫らく置いて室に滿ち滿ちた藝苑の花には疲勞れを覺えて來た觀衆を包むフレッシュネスがあつた。ごの作品にも頽廢的且つ凋落的な墮氣は見られなくて眞摯な模索の氣に滿されてゐた。一家を成した感のある校友鳥海氏の繪にすらそれあるを認めて筆者は秘かなる喜びに打たれた。創作の氣に滿された點では全展覽會陳列中此の部屋に比すべきものは稀であらう。

次に學生新聞學會の出品陳列室に行く。出品の豐富なる點興味深き點に於て優れてゐた。新聞印刷に關する各種材料、發行に到る過程を如實に示すやうに竝べられた原稿より寫眞

陪審制度模擬裁判

版の作成に到るまでの出品、過般來學されたミゾラ大學新聞學部長ウイリアムズ博士の肖像及び自署、關西大學新聞の今昔を示す各版、著名外國諸新聞等現代人の識らんとするものに滿ちてゐた。次に學生辯論部の出品陳列を觀る。この室で特に目を惹くものは内外古來の雄辯家の肖像であつた。次に學生獨逸文化研究會の出品陳列室があつた。眞摯な學的雰圍氣に滿ちた部屋で、獨逸に關するポスター、戰時中、並に戰前の各地繪葉書、寫眞、戰後の各種紙幣等が整然と陳列されてあつた獨逸文化の誇りと言はれるゲーテのファウストの美事な定本等は殊に人目を惹いてゐた。次に學生射撃部の陳列室に行けば、銃器に滿された部屋の中央に寢射の構えをした模型と射撃場の全體を示す模型とが作られて部屋の單調を破つてゐた。學生馬術部の優勝杯、額等も中央に飾られてゐた。

次に學生文藝研究會の出品を觀る。本邦著名文士のカリカチュア、各種文藝雜誌等が所狭きまでに陳列してあつて文藝的雰圍氣を釀してゐた。次室は學生藝術聯盟の出品として各種各樣の最も新らしい無臺裝置の模型が作つてあつた。光線の配置、意匠の新奇、總て素人離れがしてゐた。蓋し尠からざる努力と苦心とに加ふるに費用を以てしたことが頷かれるのであつた。最後に學生生花研究會の陳列があつた。或は峻肅なるもの、温乎たるもの、端嚴なるもの、奇且つ勁なるもの、方寸の盆水に六合無限の大自然を捕えて剪定撓歪の妙技を加へて美事に再現されてあつた。指導者の奥義に通ずる作は更なり、會員諸氏のものも、一花一木をとつて、其處に自然の姿を寫し個性の影を宿すそのすさび業を見ては心憎きまでにその惟懷を感ぜしめられた。

陪審制度模擬裁判

千里山學友會辯論部主催「若き女性の嬰兒殺事件」陪審制度模擬裁判は二十二日午後一時から本館大講堂に於て催された。定刻前會場は既に立錐の餘地もなく開會を迫る拍手の音がかまびすしい。やがて委員清水君は立つて模擬裁判を開くに至つた理由を述べ、次いで佐々敎授は陪審制度の精神について一場の講演を試みた。終つて幕が引かれるとステーヂは嚴そかな法廷となつてあらはれた。中央に裁判長左右に判事、檢事、左手少し下つて辯護士數士何れも法服で居流れ、右手には三十幾名の陪審員、書記、廷丁、巡査程よく位地を占める。先づ第一幕に於て陪審員の構成を行ひ抽籤で十二人の陪審員を定める。第二幕で被告人の訊問が行はれ檢事の事件陳述に次いで假裝の被告二人は裁判長の訊問に應じ、若き女の千里月子が出鄕後淀川武二と相識つて嬰兒殺をするに至るまでの經路を交述べる第三幕に證人の訊問と犯罪構成要素の辯論とがあり、多くの證人が其職業の特色を發揮して滿場を失笑せしめる。第四幕に於ては陪審員の評議があつて十二名の陪審員夫夫自己の意見を述べ陪審員長これを統括して裁判長の諮問に答申し、第五幕ではこの答申を基礎として法律適要の辯論あり、結局被告淀川武二は共犯にあらず、被告千里月子に懲役一年六ヶ月、執行猶豫二年間の判決があつて薄暮喝采裡に法廷を閉じた。因に右模擬裁判に出場した學生の氏名は次の通りである。

裁判長　法三　樫本信夫
陪審判事　法三　伊藤新治
同　法一　八澤倶好
檢事　同　藪下益治
同　法二　荻原精治
辯護士　同　清水政秀
同　法一　中石清一
同　田中義雄
同　豫二　春原源太郎
陪審員長　同三　白川惠宣
陪審員　同　羽淵博
同　同二　小山良次
同　貴島清次
同　同三　奥村正一
同　同二　福田俊一
同　同一　木下庄一
同　同一　淺利猪一
同　同一　長澤健一
同　西村義雄
同　日谷秀應
同　武田晴夫
被告　同二　原良人
同　千里月子　同三　嘉根勘治
淀川武二　同二　矢上德
證人　桃山咲子　同三　鳴尾芳太郎
生駒聖二　同二　加納憲介
同　藪井竹造　同　戸根泰雄
宿屋主人　同　高橋政一
廷丁　同　阿部正男
巡査　法二　尾崎末一
裁判所書記

音樂會

大學祭の第二日、秋氣おもむろに澄んで遠山の翠色が美しく眺められる十月二十三日の午前十時、本館階上の大講堂ではグラウンドの騷音を他所にして靜かに音樂會の幕が開かれた。「關西大學新聞」の號外に依つて開會を知つた人人は定刻に先つて續續會場に詰めかけ最初の曲目關西大學學歌がブラス・バンドに奏せられる頃には滿場既に立錐の餘地もない續いて尺八、獨唱、ハーモニカ、マンドリン・オーケストラと進みジャズの賑かな音樂を以

音樂會（能樂「船辨慶」）

て午前の演奏を終つた。

食事時間一時間の休憩後午後二時から第二部に入る。プログラムの第一は能樂である。春の文藝大會に示された仕舞の手さばきの鮮かさが評判となつて會場は目白押し、聽衆の大部分が學外の人であるらしい空氣が愉快である。獨吟、狂言、連吟、仕舞何れも喝采裡に終つた。次は臺所音樂で滿場大喜び、マンドリン、ハーモニカの音に暫し恍惚となる。聖歌と尺八には心そぞろに澄みマンドリン、オーケストラに又新しき興味が湧く。やがて輕やかなジャズのリズムに自ら輕くなる足踏みをそのままに最後の幕を閉じた。いつか會場には飾電燈の光燦として美しく外には夕闇が迫つてゐた。因に當日のプログラムを左に掲ける。

第一部

一　ブラス・バンド　音樂部部員
關西大學學歌
二　尺八
（一）飛行機の曲　（法一　臼井敬叟　豫二　谷内武助）
（二）摘草　（法一　鈴木寛　經一　土田喜三郎　豫二　月良道篤）
三　バス獨唱　專商一　柳原
（一）スキート・ホーム
（二）ヴオルガの舟人
（三）菩提樹の歌　音樂部部員
四　ハーモニカ獨奏　音樂部部員
ウイリアム・テル　ロシニー作
五　マンドリン・オーケストラ　音樂部部員
（一）序曲　惡魔の囁き　マチヨッキ作
（二）西班牙風の組曲　ゴルドベルグ作
六　ジャズ六曲　音樂部部員

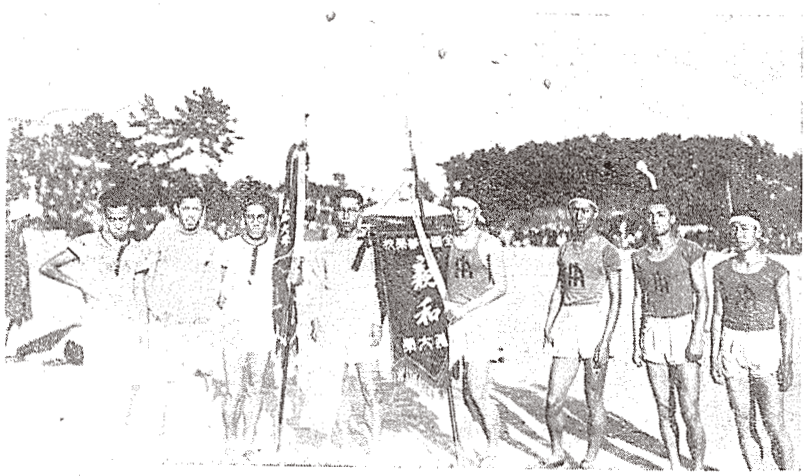
第二部

一　能樂　能樂會同人
（一）獨吟、駒之段　法一　平井梅一
（二）狂言、附子　（豫三　福田俊一　豫四　森井憲吉　豫三　寺田伴嗣）
（三）連吟、松風　豫二　木村喜英
（四）仕舞、天鼓　豫三　寺田公万
（五）仕舞、船辨慶　法一　比良井泰一
二　臺所音樂　豫科甘茶倶樂部

三　マンドリン五重奏　音樂部部員
四　ハーモニカ三重奏　ハーモニカ部部員
（一）胡蝶と蟲斯　イシカワ編
（二）野崎村　イシカワ編
五　聖歌　四部合唱　二曲　關大YMCA會員
六　尺八
秋の言葉　〔法一〕臼井敬叟
〔經一〕土田喜三郎
七　マンドリン・オーケストラ　音樂部部員
（一）幻想曲ミレナ　マチヨッキ作
（二）幻想曲ムーア人ノグラナーダ　ガルシヤ作
八　ジャズ六曲　音樂部部員

陸上競技大會

「大學祭」第一の呼物である陸上競技大會は二十三日午前九時から千里山學舍グラウンドに於て華華しく開始された。この日秋天高く晴れ渡つて四圍の山色漸く紅を交へ、校庭のコスモス一抹の艶色を點ずるところ大學のペナント高く飜つて若人の血は躍る。開會に先つてスタンドには人の影が多い。外野の學生席には應援團の喊聲が擧る。選手入場式に次いで優勝旗返還式が行はれ、戰機おもむろに動くや午前九時三十分百米競爭に依つて大會の幕は切つて落された。昨年の例に倣ひ全出場選手をその所屬に依つて學部、大學豫科、專門部に分ち各優勝競技種目の一等を三點、二等を二點、三等を一點とし總點數に依つて優勝旗を爭はんとするのである。斯くて息づまるやうな優勝競技の合間には鰌攔競走や變裝競走等オープン競技の滑稽味がスタンドをざよめかせる。中等學校八百米リレー第一豫選を終り對部リレーを濟ませて一先づ午前の部を終る。


優勝せる大阪外語及び市岡中學選手

緊張の氣を解いてほつと吐息する間もなく萬雷のやうな拍手に迎へられて運動場にあらはれたのは風俗行列大學豫科第一學年の義士行列である。四十七士の外に敵役の上野之介や清水一角も飛び出して時ならぬ劍戟の火花が散る、やがて義士の本懷が達せられて行列が引上げると次は專門部の首祭りである。先づ數十人の土人が場の中央にあらはれたが酋長の號令一下、怪むべし、場の周圍から無數の土人が蜂起して酋長を取卷く、犧牲となつた一人の白人の死屍を擁してさても奇怪な首祭り、滿場は大喝采である。

午後の部に入る、優勝競技は戰愈酣にして選手の意氣は益壯、應援團の熱は愈烈である。オープン競技にも一層の興が乘る、午後三時去年の大學祭に名を賣つた大學豫科第二學年の千里山土人踊りが觀衆の腹をよらせる。紙製の大きな髑髏を燒いてその圍を踊り歩くあたり嬉嬉たる白日の下尙ほ凄慘な一大ページントを見る心地がした。陽足が漸く西に傾く頃中等學校八百米リレー決勝、大學、高等、專門學校千六百米リレー決勝が手に汗を握らせ、斜陽地に長く人の影をひく時敎職員の餘興的競技が最後の笑ひを止めた。

因に競技順序及び陸上競技大會係員は左に示す通りであつたが尙ほ競技の結果は次の如き成績を示した。

中等學校八百米リレー決勝
一等＝市岡中學（一分三十九秒）、二等＝海草中學、三等＝豐中中學
大學、高等、專門學校千六百米リレー決勝
一等＝大阪外語（三分四十三秒五分の四）、二等＝京都帝大
優勝競技各部得點
學部＝二十二點、大學豫科＝四十八點、專門部＝四十八點

右の成績に依り中等學校八百米リレー優勝者大學、高等、專門學校千六百米リレー優勝者にはそれぞれ規定の優勝旗が授與せられたが各部の得點に於ては大學豫科と專門部とが同體なる爲め最高點者に與へらるべき優勝旗は今年に限り大學に留保せられることとなつた。

△陸上競技大會順序

選手入場式並びに優勝旗返還式

一　百米競走決勝（優勝競技）
二　千五百米競走決勝（オープン競技）
三　走高跳決勝（優勝競技）
四　片足競走決勝（オープン競技）
五　二人三脚競走決勝（優勝競技）
六　鰌攔競走決勝（オープン競技）
七　四百米競走決勝（オープン競技）
八　盲啞競走決勝（優勝競技）
九　中等學校八百米リレー第一豫選
一〇　變裝競走決勝（オープン競技）
一一　鐵彈投決勝（優勝競技）
一二　對部リレー決勝

風俗行列義士行列（大學豫科第一學年）
同　土人首祭（專門部）

一三　化粧競走決勝（オープン競技）
一四　皿冠競走決勝（オープン競技）
一五　百足競走決勝（オープン競技）
一六　五千米競走決勝（オープン競技）
一七　走幅跳決勝（オープン競技）
一八　圓盤投決勝（オープン競技）
一九　中等學校八百米リレー第二豫選
二〇　綱引（優勝競技）

風俗行列千里山土人踊（大學豫科第二學年）

二一　パン喰競走決勝（優勝競技）
二二　中等學校八百米リレー決勝
二三　大學、高等專門學校千六百米リレー決勝
二四　障碍物競走決勝（優勝競技）
二五　來賓、職員、同家族競走
二六　八百米リレー決勝（優勝競技）

優勝旗授與式

△陸上競技大會係員

競技係　敎授　櫻井匡
審判係主任　同　松田一

同　　同　中村鄧次郎
進行係　同　岩崎卯一
賞品係主任　講師　野村次夫
決勝審判員(學生)＝木下恒雄、岸源左右衛門、丸谷實、津田晴一郎、佐藤貫治、村上正躬、平野季雄、藤本浩一
投跳審判員(學生)＝竹割寅之助、谷上茂、西田利慶、松隈獅郎、古川親、中澤四郎、花谷猛、戸川靜馬、吉川平治、西田一雄、四反田有方、片山眞二
出發合圖員(校友)＝金田格
監視員(學生)＝松川一男、三宅次郎、有賀次郎、中川英一郎、中尾幸一、大西貫次郎
計時員(學生)＝西村壽陸、小林仙一、田中重一、高橋康夫、福島博
記錄員(學生)＝稻村金藏、石渡健吉、政岡靖彦、原荛太郎
通告員(學生)＝西村壽陸
召集員(學生)＝個宇兵衛、日昔利三郎、福原克巳、奥西茂樹、竹內幸三郎、田村留三郎、西田正雄
他校選手係(學生)＝松葉德三郎、矢柴春雄、小林元二、門脇治郎
競技準備係(學生)＝三宅一一、西岡忠勇、片淵昇、南浦保夫
賞品係(學生)＝小森龍

「大學祭」執行委員一覽

第二回「大學祭」執行委員氏名左の通りであつた。

教職員委員

執行委員長　專務理事　宮島綱男
運動競技係(主任)　教授　櫻井匡
同　(審判係)　同　松田一
同　(賞品係)　講師　野村次夫
同　(進行係)　教授　岩崎卯一
同　(同)　同　中村鄧治郎
接待係(主任)　同　小泉幸治
同　幹事長　野村吉藏
同　講師　森下政一

大學豫科第二學年學生の千里山土人踊

會場取締係(主任)　教練教官　高橋爲一郎
同　同　香坂次郎
同　同　板津直俊
同　學生監　松崎義盛
同　同　若松新吾
設備係(主任)　教授　河村信一
同　講師　樋口純
同　祕書　桂忠雄
同　同　木戸卯之助
同　書記　稻垣鐵五郎
展覽會兼風俗行列係(主任)　教授　田邊信太郎
同　同　佐々穆
同　講師　堀正人
同　同　河盛好藏
同　同　加藤金次郎
同　同　中村良之助
音樂係(主任)　教授　河村信一
同　同　田邊信一
各部交涉係(主任)　教授　岩崎卯一
同　講師　今山實
同　衛生係(主任)　同　大立目重虎
同　大會記事係(主任)　教授　武內省三
講師　今山實

專門部學生の土人首祭

同　同　新町德之
賣店係(主任)　教授　佐々穆
同　同　小泉幸治
同　同　櫻井匡
庶務係(主任)　幹事長　野村吉藏
同　幹事　木下孫一
同　秘書　桂忠雄
同　學生監　松崎義盛
同　書記　山本順應
同　會計係(主任)　秘書　田川七郎
同　宣傳係(主任)　講師　野村次夫
同　同　今山實

學生委員

千里山學友會代表委員＝小角太一郎、壷田倫夫、門脇治郎、福原菊治郎、白川惠宜
福島學友會代表委員＝大井英一、正井善三、松井廣瀨、東三郎、鹽屋甚助
運動競技係＝門脇治郎(主任)、正井善三(主任)、稻村金藏、四反田有方、西岡忠勇、尾崎米一、藤田泰次、田村留三郎、岸田久馬、永井昌彦、中井三之助、安藤實、瀧本正次、西崎作太郎、矢野三郎、伊丹啓次、奥辰雄、青野昌平、米田恒治、松井重一、喜田勝見、山口清、魚住良藏、大石勝、伊藤光一、吉田一郎、松本榮一、中村三次
接待係＝木下虎一(主任)、露口長一(主任)、宮田平三、白髮茂、西內潔、清水正秀、白川惠宜、西代幹、高田忠三、矢野三郎、野口鋼榮、天野律司、長谷正事、桐山長次、谷口宗一
會場取締係＝碇勝(主任)、原數男(主任)、平山義明、磯田賢次郎、北尾友治、萩原一
設備係＝正井善三(主任)、福原菊治郎(主任)、服部實、筒井一馬、釣仁八、淺川文雄、北原元茂、山室義雄、池田幾久、岩男恭雄、佐藤辰夫、一柳俊雄、田代榮吉、奥村正一、赤司憲二、中村好三、近藤實、伊集院賢、沖島基、藤本武一、高橋政一、福本眞一
展覽會係兼風俗行列係＝藤田日出夫(主任)、島田信一、尾崎信夫、阿部寛、浦地辰雄、木田繁三

郎、加納三郎、西條傳吉
音樂係＝三木八郎（主任）、河野覺壽、森本新太郎、栗並稔
各部交涉係＝亞田倫夫（主任）、東三郎（主任）、藪下益治、大宅六三郎
衛生係＝中村光楠（主任）、灘龜藏（主任）、中津政雄、越智千里
大會記事係＝黑柳章（主任）、松井廣（主任）、木下尙武、川上孝則、大熊隆
賣店係＝伊藤祐一（主任）、鹽屋甚助（主任）、寺下勇、山口秀盛、眞鍋鎌一、飯田貢、長澤健一、奥野英
庶務係＝永橋政一（主任）、中山謙一、伊藤秋三、大宅六三郎、蘭野正三、前田茂生、三宅英男、米田數雄
會計係＝小角太一郎（主任）、阿部寛（主任）、若林一雄、大宅六三郎、尾崎信夫、森井惣吉、西田竹雄、河野政平、本田薫一、福井治平、白川智
宣傳係＝白川惠宜（主任）、清水正秀、山田寅、堀武雄、黑柳章、渡邊正人、木下尙武、白井正實

續續涼秋夜話

今山生

△

春蒔き夏育し秋穫り冬藏するは自然の定めだある。萬傾の黄金が見渡す限り波をうつて居る。一本足の案山子が烏雀に馬鹿にせられながら、なほその職責をつくし顔になつて居る案山子一つ烏も赫さず、田も穫らずこやつて見た、元來三島郡は酒米の產地であつて、米の品質は第一の筈なのだが、さて我我の口に這入るのは決して、その一等米ではない、一等米として賣るのも大抵混合米である、多分鮮米が四割位いは混じてあるのだらう、今年は米が豐作だそうだ、第一回の收穫豫想は六千百五十萬石だそうなが、豐作だつら、我我が安いお米が食べられるこ安心するこ、大きに問違ふ、大體小賣相場こいふものは相場の波の頂點から頂點を傳つてゆくものだ、卸相場が下つても小賣商はこれは高い時に仕入れた米だこいふて、値を下げない、卸相場が上れば直ちに安い時に仕入れた米でも相場が上りました、こいふて値を上げる、馬鹿を見るのは瑞穗の國の國民で、いつもいつも米が喰へないこ嘆かねばならない、一體公平な公定相場がその年年で作れぬものか、經濟學者にききたひこ思つて居る。

△

今コスモスの花がだいぶ方方で、咲いて居るあの花は嫋嫋こして清艶な美人を思はせる。私が東京の郊外の代代木に居た頃代代木の家こいふ家は、みなコスモスを植えて居るのだが私も學校を出て外國に二年行つて初めて東京に歸つて、あのなつかしいコスモスを見やうこ代代木に行つて見たら、秋風爽爽いたづらにダリヤの花のみであつたのを見た時は、戀人の訃に接した時の樣な氣がしたものだ、一體人間の心こいふものは微妙なもので、住めば都代代木野原の草木さへ三年こいへば、なつかしきかなこ代代木を讃した私も、その後代代木の事はスッカリ思ひ出さなくなつたこにかく秋風萬殺の間にコスモスの姿を見るこ、なつかしい、そして物悲しい思ひが湧く要するに感じこいふ事は人間が自然に支配された心の持樣一つである。

校友の面影

▲大阪地方裁判所檢事　兼松謙太郎氏▼

明治三十七年法律學科出身

秋漸やく深く朗冷の氣日こ共に加はり、心すずろに緊張を覺ゆる一日筆者は大阪控訴院に兼松檢事を訪れて、親しくその說に聞くこころがあつた。

氏は明治十七年岡山縣に生れた。同三十四年志す所に從ひ關西大學に入り專ら法律を修め三十七年卒業した。卽ち司法官たらんこし、尙研鑽を積み同三十九年判檢事試驗に登第し司法官司補に任ぜられ大阪地方裁判所詰こなつた。時に年齡漸やく二十三歲、その頭腦の明晰は勿論、その努力も亦窺ふに難からざるこころである。同四十一年八月判事に任官神戸に轉じ、居るこ年餘、翌二年再び判事こして大阪に歸つた。大正元年に至り檢事に補せられ高知地方裁判所に轉じ、同三年更に和歌山に轉任した。大正八年京都に轉じ、同十年奈良に榮轉したが更に本年八月三度大阪に歸り地方裁判所詰こして、執務は專ら控訴院に於いてなし今日に及んでゐる。實に二十有數年間に亙る司法官生活を續け、先輩高官の推挽少き私學出身者こして今日を爲せる氏の半生を省察する時、その嘗めしパイオニアの苦惱こ、尊き獻身的努力に筆者は今更乍ら敬虔の念を禁じ得なかつたのである。尊いその體驗を通じて吾人が聞いて以て多少こも他山の石たらしめやうこその感想を叩けば、氏は極めて謙讓な語調で、

「別に申上げるやうな感想もありませんが、ただ私が痛切に感じますのは、概して日本では、司法に關する理解が、歐米諸國に比較して、薄いやうに思はれる點であります。來年度位から實施される——現に一部には既に施行されてゐるが——陪審制度についても當局は、その施行が當初の目的に添ふやうに非常に努力してゐる。卽ち制度そのものの施行に先つて一般民衆に司法の如何なるものなるやを正しく理解せしむるこに努めてゐるのですが一般に我國の國民性は外國人こ異り、排人は公敵であるこ言ふ觀察が乏しく、一般に障らぬ神に祟りなしこ言ふやうな敬遠的の態度や性質を多く持つてゐるので、或事件の取調についても非常に困難を覺えるのであります。又僞證等が非常に多いのもこの國民性に原因するのではあるまいか、その實例こしては、現在一部始終を知りながら、さて取調べる段になるこ何も知らぬこ言ふ者がある。それを糺明するこ、知つてゐるこ言ふこ關り合になるこか迷惑を受けるこか又斯樣なことを言へば恨を受けるこかの私心から國家の正義の表現たる裁判こ言ふことを考慮しないでゐることがある。殊にそれは或る小學校の校長であつたが、村長が村役場の公金を費消した爲め教員達もその月給を數ヶ月間貰へないやうになつた事件に就いて取調べた所が、決して左樣なことはありません、毎月日を違はず貰つてゐるこ申立てをなした。然しその事實こ相違せる爲追窮するこ全く欺はりを申立てゐたこ言ふ。何故僞はつたかこ聞けば、校長は自分等は村より月給を貰つて生活してゐる。村長は村の主宰者である。然らば恰度親の如きものである。論語に『親は子の爲にか

くし、子は親の爲にかくす、直きことその中にあり』と言ふ節があつた。自分が欺はりを言つたのは卽ちこの孔子の言を守つたのである、と言ふが如く全く意表に出た陣述をした。身は教育者にして旣にかかる誤まつた考を持つてゐるのかと私は實に寒心に堪へなかつた。これは全く私事と公事とを省みない結果で、從來の國民教育に於て國家正義、裁判、檢察等の事について閑却されてゐた爲であると思はれます。故に修身教化に於ては忠君愛國思想の敎養は勿論のことであるが尙人間完成に就いての正義正直の思想を養成し、且つ國家對國民の關係を正しく理解せしむるやう努むる必要があらうと考へます。』と結び、尙、世上の操觚業者が、檢事を鬼檢事だとか辛竦極まる論告とか言つて書くが、これ程甚だしい侮辱はないと考へてゐるとも語られた。蓋し少しでも民衆の爲に正しきものの味方として事の黑白を取調べんとする檢事の職務が徒らに世人に畏怖の念を抱かしむるに過ぎない世狀に寂しみを覺へた氏の獨白とも、筆者には點頭かれ、感に堪へなかつた。

× ×

氏は職務以外に是と言つて擧げる趣味を持たぬと謙遜されたが、專ら讀書と散步に家庭に於ける時間を消してゐらるる由で、文藝思想に關する書を讀むことが樂しみの一つであると。

談たまたま母校のことに及ぶや、在學當時を偲び、洋燈をともして河內町の狹隘な寺の堂に學んだこと、江戶堀に移つても極めて貧弱な寺子屋式敎育だつたこと、同窓に、內藤、深川兄弟(大阪)赤阪(和歌山)諸辯護士、司法官では松江の次席檢事小谷等があつたこと、講師に京大の井上密、織田萬、高根義人、田島錦治、千賀鶴太郎、辯護士勝本勘三郎、長崎控訴院の南谷檢事長、大審院の矢追檢事、同判事入江良之諸氏があつたこと等を物語り、現在の關西大學を見ては全く隔世の感があると、今日の盛大を祝して感深き有樣であつた。氏は今尙奈良に住まひ、家庭は令閨に令息、令孃の四人であるが、近く大阪附近に移らねばならぬだらうとのことであつた。

莞爾たるその溫顏に溢るる氏の人格の片影は筆者をして限りなく追慕せしむるものであつた。氏は碌碌の生と言はれたけれども、その長き司法官生活とその中に織り込まれた幾多の功績は、吾人をして仰き見せしむる高きものなるを信ずる。

聰明に輝やく瞳、漆黑の頭髮、潑溂たる意氣、筆者は擱筆するに當つて、尙氏に望む今後に益多きを加ふるものあるを祈る所以である。

田村清吉氏

鍾松謙太郎氏

▲横濱市助役　田村清吉氏▼

明治四十三年法律學科出身

今を去る約二十年前、本學法律學科學生中に年齡三十を越えた一人の學生が居た、三十や四十を以て老いたりとは言へないけれども血氣に滿ちた青年學生中、世路の半ばを步み漸やく分別の確固たるものの見ゆるこの一學生はその比較的年長者たるの故を以て、否寧ろその眞摯不退轉の精進努力の點に於いて衆輩注目の的となつてゐた。これこそ今茲に紹介せんとする田村氏その人であつた。

顯榮を夢みて机上に空論するは易く、高圖を胸に秘めて刻苦琢磨の道を辿るは至難のことである。

本學幹事木下氏を通じて氏に求めた感想に、「前略——感想としては別段無之候得共只常に顧みて兵庫縣廳に在勤中公務の餘暇を以て三年間の修業を爲し得たる事を偉とすることに有之候、此間友人の筆記を借りて補稿する爲に午前二時頃になること多かりしも毫も意に介することなく無之候、是れ修學に專念せしに基因する義と存候。

爾來此意氣を體し來りたる爲今日迄大過なく罷在候義と存じ關西大學に於ける三ヶ年の修業に因りて體得したる精神が小生に行路を案內したる樣に想はれ母校に對して常に感謝罷在候次第に有之候」と。尙ほ氏の近照を御依賴した返事に「最近撮影のもの無之別紙は大正四年のものにして現今の如き白髮老顏とは似も付かぬものに候得共餘日なき爲御送附申上候間可然御處理被成下度候」とあつた。

× ×

何分遠隔の地のこと故筆者が親しく氏に聞くことを得なかつたが、多年氏と親交のある本學木下幹事に就いて大略左の如き氏の御經歷を伺ふことが出來た。

氏は明治八年十二月二十六日兵庫縣加古郡加古川村に生れた。出生地の小學校を卒へた氏は猶登高の念止みがたく明治三十年十一月奈良縣文官普通試驗に應じ一度にして及第、兵庫縣廳に奉職した。兵庫縣の屬官勤務中、明治四十年關西大學法律學科に入り、同四十三年卒業した。氏の同窓現在復興局事務官である西村輝一氏と共に終始拔群の成績であつた。

爾來數年各地に郡長としてその經綸を行ふところがあつたが後橫濱市役所に主事として聘

（第一七頁へ續く）

校友彙報

三九倶樂部創立

本學專門部第三十九回(昭和二年三月)卒業者有志相寄り、會員相互の向上親睦を計る目的の下に組織せられた三九倶樂部は、去る九月二十五日午後六時より千代崎橋畔いろは牛肉店に於て、その創立總會を開催した。集る者十數名、互に去りやらぬ學生氣質そのまま、會宴數刻、母校の隆盛を祝し和氣靄靄の裡に散會した。第二回總會は來る十二月下旬開催の豫定である。因に同會では廣く本年度卒業者の入會を希望してゐる由である。尚入會申込先は左記の通りである。

大阪市東成區片江町一九七ノ二　三九倶樂部事務所　當番幹事＝井上種男、杉田英一、北野千太郎

計理士志望者懇談會

本月二十七日(第四日曜)午後五時より本學校友谷岡登、江村至身兩氏發起の下に、北區堂島ビルディング二階二〇一號A室谷岡、江村計理事務所に於て計理士志望者懇談會を開催さるに就いては、本學校友並に學生諸氏中計理士志望の方方の參加を希望してゐるとのことである。因に當日は晩餐の準備をなす由で(會費は壹圓五拾錢當日持參のこと)參加希望者は前日までに發起者まで通知を要するとのことである。

校友動靜

山下菊一氏(大九法)　今般豐崎第五尋常高等小學校長を退職せられ東淀川區東庄中通二丁目八番地に於て辯護士法律事務に從事さるることになつた。

小野塵一氏(大四〇法)　今般判事として北海道札幌地方裁判所に赴任された。從つて從來執務されつつあつた辯護士事務を廢された。

校友會東京支部總會記念寫セ書(十月十五日)

末松正行氏(推)　今般那覇地方裁判所長に補せられ那覇市松山町二丁目裁判所官舍に轉住された。

根津菊治郎氏(大一五專商)　從來勤務中であつた大阪朝日新聞金澤通信局より同社奈良支局に轉任された。

舟津和夫氏(大一五專法)　最近福岡日日新聞社編輯局に勤務さるることになつた。

鈴木義衛氏(明三六法)　今般朝鮮群山高等法院支廳より京城地方法院開城支廳判事に榮轉された。

佐伯辰巳氏(大一〇商)　從來勤務中であつた氏の勤務先であつた兵庫電氣軌道株式會社は今般宇治川電氣株式會社電鐵部と改稱の由。

市原豐吉氏(大五法)　一昨年夏より東京電燈株式會社に轉勤尚勤務中の由。

久松幸三氏(大一二經)　過般神戸市榮町住友銀行神戸支店に轉勤された。

下條幹一氏(大四法)　今般大同生命保險株式會社大阪支店に奉職された。

校友住所移動

山下菊一(大九法)　東淀川區東庄中通二ノ八
花村格(大一四專法)　京都市本町二一東上ル將校町平賀婦美子方
小野塵一(明四〇法)　札幌市北大通西一二ノ四
赤木喜久三(大一五專法)　西成區潮路通五ノ九
福森秋芳(昭二專文)　神戸市外原田四七六ノ一〇東方
切川竹治郎(大一五專法)　住吉區墨江町二五六上田常造方
岡村順藏(大一三商)　港區桂町三丁目一四
乾英一(大一三商)　東淀川區天神橋筋八ノ七
武田熊太郎(大一五專商)　東區北濱一丁目六野村ビルディング五、六階大倉商事株式會社大阪支店内
小松金重(昭二大商)　天王寺區石ヶ辻町七四
阿部新一(大一四專法)　北區中之島二ノ六一石黒行平方
長谷川安治(大一四專法)　姫路市東東雲町一
藤井彌一郎(大一一法)　東淀川區豐崎西通一七藤井洋行
池谷龜太郎(大一三法)　東京市四谷區花園町九六
兼松謙太郎(明三七法)　天王寺區東高津南ノ丁一九
舟津和夫(大一五專法)　福岡府下警固福岡日日新聞社
猪口重男(昭二大法)　北區芝田町一〇六櫻井方
出石熊藏(昭二專法)　東淀川區國次町二九五
佐伯辰巳(大一〇商)　神戸市板宿前池町二丁目六
村井久(大一四專法)　東京市丸ノ内鐵道省東京第一改良事務所
浦田豐(明四四法)　港區北境川町二ノ二三
近藤政士(大一三經)　兵庫縣武庫郡今津町字洲島一三
安田忠治(昭二專經)　港區市岡八雲町四ノ一二
福田繁芳(昭二專法)　中澤千代吉方
福田龍次郎(大一五專法)　東京市牛込區原町一ノ一
坂口軍司(大一三法)　一西村慶三郎方
寺島熊市(大八法)　此花區西島北港住宅一三
本郷桂(明四〇法)　住吉區天王寺町二ノ一四八
山崎義雄(大一二法)　明石市樽屋町一ノ一六〇
萱島櫂六(昭二專法)　東京市神田區千代田町九今川橋際
東區備後町二ノ二三川崎第百銀行備後町支店
兵庫縣加西郡北條町北條一三〇九

校友改姓名

(舊)　(新)
大一三經　諏訪賢三郎　寺尾賢三郎
大一三法　三谷龜太郎　池谷龜太郎
昭二專法　阪口榮義　漣榮義

校友逝去

昭和二年十月九日
和歌山縣新宮町初之地八二
佐藤皎氏
大正七年專門部法律學科卒業

右訃音に接し謹んで弔意を表す

學生彙報

新聞學會例會

新聞學會では十月四日午後六時から千里山學舍クラブ・ハウスにて例會たる新聞漫談會を催ふした。定刻會員十數名出席、劈頭佐々教授より過般來講せるミゾラ大學新聞學部學長ウイリアムズ博士が寄贈せられたるジャーナリスツ・クリードに關する說明あり、終つて幹事增子一巳君一場の挨拶を述べ各自新聞に關する漫談に花を咲かせ午後九時盛會裡に散會した。因みに同會では前記ウイリアムズ博士の快諾を得て同博士を名譽會長に推戴した由である。

千里山野球部報

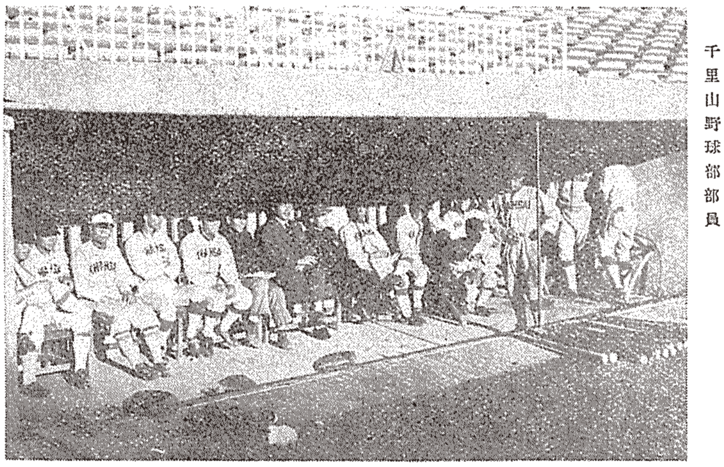
對ダイヤ野球戰――本學對ダイヤ野球戰は九月九日午後三時十一分より甲子園球場に於て擧行された。審判天知(球)横澤(壘)兩氏ダイヤ先攻にて開始、六回迄兩軍相讓らず、共に得點が無かつた。七回の表でダイヤに一點を先取されたがひるまず猛然と攻勢に出で一擧にして三點を入れ八回に及んで各一點を入れ遂に四A對二で大勝した。

ダイヤ(先)			ダイヤ		關大		關大	
中	鍛冶		33	打數	29		二	豐田
左	高濱		8	安打	5		捕	影山
捕	小柴		2	犠打	2		右	坂井
二右	橋本		2	三振	8		投	本田
投	永井		3	四死	3		左	川西
一	長濱		1	盜壘	1		中	小西
右	森口		4	失策	0		遊	三木
二	宇井		1	二打	0		三	河村
三	濱崎		0	三打	1		一	森田
遊	間野							
遊三	植村							

得點 ダ 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 0＝2
得點 關 0 0 0 0 0 0 0 0 3 1 A＝4A

本學主催中等學校選拔野球大會――十月十六日正午千里山本學球場に於て八尾中學對敦賀商業戰開始、審判森田(球)豐田、本田(壘)三氏、五對一にて八尾中學の大勝に歸した。

八尾中學	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
敦賀商業	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1



千里山野球部部員

次いで市岡中學對名古屋商業戰に移つた。審判蔭山(球)能勢、淺野(壘)三氏 劈頭各一點を入れたまま七回の裏まで互に得點なく八回の裏に至り市岡一點をリードしファイナルとなり共に二點を入れ遂に四對三にて市岡中學の勝つ所となつた。

市岡中學	1	0	0	0	0	0	0	1	2	4
名古屋商業	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3

翌十七日午後二時より前日の勝者である市岡中學對八尾中學の優勝戰を擧行した。球審本田、壘審能勢、豐田の三氏、三對零で市岡中學大勝した。

市岡中學	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
八尾中學	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

淺間體育協會招聘對大毎野球戰――松本市淺間體育協會の招聘により本學對大毎野球戰は十月二十二日午後二時七分松本市外淺間球場に於て擧行された。本學先攻、大毎一回高須渡邊の二壘打と一壘失に二點を先取し、本學は四回本田蔭山の安打と一壘失に一點八回本田の二壘打と小西の安打で一點を入れ同點となりその裏大毎湯淺中川の安打で一點を得三對二で惜敗した。三時五十分閉戰、

(大毎)		(關大)	
9高須	打32 安8 盜4 振2 球2 失7	5川村	打32 安6 盜3 振5 球3 失3
4横澤		4豐田	
6谷澤		7川西	
3渡邊		3本田	
7大門		9阪井	
1湯淺		8小西	
8中川		2蔭山	
5内海		1森田	
2天知		6三木	

毎 2 0 0 0 0 0 0 1 A | 3
關 0 0 0 1 0 0 0 1 0 | 2

對京都帝大野球戰――本學對京都帝大野球戰は十月二十六日午後三時半より寢屋川球場に於て擧行された。審判鶴田、戸田兩氏、三回京大瀬脇右翼前安打二アウト飯島三遊間を拔き左翼手三壘高投に瀬脇還り松田も三遊間を拔いて飯島得點、四回本學一アウト後豐田四球捕手逸球に進み阪井内野安打、小西の三遊間安打左翼トンネルし三者得點、六回京大石田四球丹羽に送られ二アウト後投手フライ失に得點渡邊右翼前安打し德川生還、八回本學蔭山以下三者四球二アウト捕手逸球で蔭山生還同點となつたが日沒の爲停戰した。

(京大)		(關大)	
8德川	打37 安12 盜4 振3 球3 失1	3.1森田	打25 安3 盜1 振9 球6 失4
3渡邊		6三木	
7飯島		4豐田	
9松田		9阪井	
5佐藤		8小西	
2永吉		7川西	
1石田		1阿部	
6丹羽		3本田	
4瀬脇		5淺野	
		2蔭山	

(三壘打)蔭山(二壘打)飯島

關 0 0 0 3 0 0 0 1 | 4
京 0 0 2 0 0 2 0 0 | 4

對京都帝大野球戰――十月三十日午後一時五十分より本學對京都帝大第二回戰を寢屋川球場に於て擧行、審判梅田(球)、鶴田(壘)三對零で本學大勝した。

關大(先)			關大		京大		京大	
捕	蔭山		24	打數	22		中	德川
二	豐田		5	安打	2		一	渡邊
右	阪井		1	犠打	0		右	川澄
中	小西		7	三振	6		左	松田
一	森田		4	四死	0		三	佐藤
投	本田		2	盜壘	0		投	石田
遊	三木		1	失策	3		遊	丹羽
左	川西		0	捕逸	2		捕	宇磨谷
三	川村		1	三打	0		二	瀬脇

得點 關 0 0 1 0 0 2 0 (七回試合)＝3
得點 京 0 0 0 0 0 0 0 (七回試合)＝0

對京都帝大野球戰――十一月三日午後二時二十分より甲子園に於て第三回戰を擧行した。五對一にて本學の大勝に歸した、當日のスコアは左の通りである。

(關大)		(京大)	
6三木	打34 安8 盜3 振8 球4 失1	8德川	打38 安3 盜0 振5 球1 失3
3森田		4瀬脇	
9阪井		3渡邊	
8小西		7飯島	
1本田		9松田	
5川村		6圓羽	
2蔭山		5佐藤	
7川西		2永吉	
4豐田		1石田	

(杉村早川)

關 0 1 0 0 1 0 1 0 2 | 5
京 0 0 0 0 1 0 0 0 0 | 1

千里山馬術部報

第四回全國乘馬大會に優勝の榮冠を獲得した千里山馬術部は益内容と實力の充實に力を盡し、先づ去る七月十七日都員一同は練習ならびに相互の親睦を計る主旨の下に三週間、信太山山光園柳氏別邸に於て合宿した。この間多大の御盡力に預つた大阪愛馬會長柳氏に對して深く感謝の意を表するものである。左に合宿日誌の一節を掲げる。

七月十七日　晴

炊事當番樋口、小寺、起床午前五時、朝食同六時、織田(高千穂)岡島(大黑)春元(金泉)大谷(澤榮)小寺(高嶺)田中　松月)は三ヶ尻教官(立藤)引率の下に濱寺へ、當日附近在郷軍人會會員一同濱寺柳氏本邸へ見學に來る。本學の樋口大谷兩君出場し高障碍飛越を行ひ非常なる賞讃を得、柳氏も亦高等馬術を行つた。學生一同と同氏邸にて中食、濱寺海岸より馬脚を沒すること一尺の處、白波を蹴立てて高師濱に向ひ午後四時歸山した。夕食午後六時就寢同九時。

七月二十日　晴

炊事當當春元、田中、和田、起床午前四時朝食同五時。松本、木村(日吉)は園内馬場にて練習、織田(金泉)岡島(高嶺)小寺(大黑)田中(松月)和田(高千穂)は午前五時三ヶ尻教官引率の下に濱寺へ。日未だ東天に昇らず、殘んの月淡く西の空に餘影を現はしてゐる中を微風を馬の鼻の面に切つて朝霧の中を進み行く時若人の血は躍る。かつかつと大地に響く蹄鐵の音、馬の嘶き、夏の曉きの乘馬練習の快よさよ。夕食午後六時就寢同九時。

七月二十六日　曇

炊事當番大谷、松本　起床午前五時朝食同七時、樋口　高嶺)田中　高千穂)は午前六時濱寺へ、同九時歸山、織田(福龍)岡島(道勝　春元(金泉)は午前七時半原へ、同八時歸着　小寺、松本　日吉　は園内馬場にて午前六時より同七時まで練習。午前八時半田中先生及び同先生甥木下君が合宿所を訪問された。中食に信太山ライス(但部員特製の御馳走をした。午後四時先生方を送つて濱寺へ、濱寺にて慶大馬術部選手野尻　木下、小平の二君と會し共に海岸にて小憩後柳氏邸に至り對抗競技の打合せをなす。その夜慶大馬術部選手一同は我が合宿所に宿つた。就寢午後九時。

關東遠征記——天高く馬方に肥ゆる九月二十一日馬術部選手七名は札野先輩を初めその他熱誠なる多數の人人に送られて意氣揚揚梅田驛を發し東部に向つた。

九月二十四日、陸軍士官學校大久保馬場に於て東西對抗競技を擧行し關西側代表選手として本學織田、岡島、樋口、大谷の四君出場した。信太山合宿以來の猛練習の甲斐空しからず、ここに八點の差を以つて關東側を一蹴した。此の日觀衆歡呼の中に名譽の優勝旗は會長松平伯により關西軍に授與された。尚本學豫科大谷、淺本兩君の團隊競技は健闘の結果入賞三等の榮をかち得た。

九月二十五日、第三回慶大對本學馬術競技を大久保騎兵第十五聯隊營庭に於て擧行した。本學織田マネジャー引率の下に岡島、春元、樋口、淺本、小寺の諸君出場す。東西の雄、千變萬化秘術を盡して戰ふ樣は龍虎の爭ひにも比すべく、壯烈なる極みであつた。その結果は四九九點對四八八點を以て本學は兩度優勝した。當日小寺君は初陣であつた。夕陽正に西山に沒せんとする時　慶大馬術部長川邊教授により榮ある優勝旗は本學織田マネジャーの手に授與された。

濱寺海岸に於ける千里山馬術部員

千里山ア式蹴球部報

十月二十九日明治神宮競技大會に出場した本學ア式蹴球部は、ア式準決勝戰である本學對鯉城戰を午前八時より擧行、主審清水、線審後藤、齋藤二氏審判の下に本學の先蹴に開始前半鯉城は整然たる連絡をもつて本學を苦しめ五分RM佐藤のロングシュート斜めにゴールに入り一點を先取され、十四分コーナーキックの後、一度は隅に入つた球を鯉城再びゴール前に送り牛島ゴールに蹴込んで得點を重ね本學苦戰を重ねた。

後半鯉城依然優勢を持し十一分牛島のロングシュートをGK止め得ずして右隅に入り二十七分ペナルティキックを得たが横木に當つて入らず、その中佐藤よりのパス牛島のシュートに得點を加へ四對零にて本學敗れた。

（大關）森磨泉田山谷縣野野村結
吉播和寺小三小山日竹吉
FW　HB　FB　GK
（鯉城）城島本野藤田田内山上子
結牛倉水佐豐小堀深三金
GK　CK　FK
8　10　2
7　17　11

千里山ラ式蹴球部

對京大ラ式蹴球戰——十月八日午後三時半より京都帝大對本學ラ式蹴球戰を京大球場に於て擧行、京大先蹴、レエフェリー村山、前半京大三トライ、三ゴール、後半三トライ、三ゴール計五十三點をあげ本學零敗した。

對天中ラ式蹴球戰——十月十二日午後四時天王寺中學校庭に於て擧行、レエフェリー大市氏、十七對十三にて本學勝つ。

對關西ラグビーラ式蹴球戰——十月十六日天中校庭にて午後一時半より擧行、レェフェリー橘氏、關西ラグビー前半三トライ、二ゴール、一ペナルティ、後半四トライ、一ゴール、一ペナルティで合計四十二點をあげ本學零敗。

對青山學院ラ式蹴球戰——十月二十四日午後零時半より本學對青山學院戰を東京農大運動場にて擧行、レェフェリー小兒、九對九にて引

分けとなつた。

對大阪外語ラ式蹴球戰――十一月三日午後三時半より本學大運動場に於て擧行、本學前半二トライ、一ゴール後半一トライ一ゴール一ペナルティゴールを得、二十二對零で大勝した。

對神戸外人ラ式蹴球戰――十一月五日午後三時十五分より甲子園で外人のキックオフに開始前半外人二トライ、一ペナルティゴール、後半外人二ゴール、一トライ、一ペナルティゴールを得本學一ペナルティゴールで結局二十五對三で敗れた。レフェリー中村氏。

關西大學愛媛縣人會總會

關西大學學生愛媛縣人會は去月十四日午後五時半より梅田驛前アサヒ、ビヤホール別室で總會を開催した。來り會するもの十七名、いつもの例會が吹田町大日本麥酒株式會社重役室で行はれたのに今度は特別で洋式の食卓を圍んで一同ビール會社直接の而も新鮮そのもののビールに滿を引き歡談數刻、相互に胸襟を開いて或は故郷伊豫の風光を想ひ、或は我が關西大學の發展を喜び話は盡くる所を知らず、本會顧問大日本麥酒常務取締役高橋龍太郎氏の御好意に依り特に精選して作られたるビール會社特製の洋食に一同舌鼓を打ち、デザートに入つては本會顧問にして現在北區眞砂町にて辯護士開業中の富永竹夫氏より過般世の耳目を驚かした松島事件につき專門的立場より法の解釋並に裁判の內容に付有益且つ興味ある講話あり我等法律學生にとりて最も知るを要して然も窺知するを得ざりし實際問題に關し一同の蒙を開いて貰つた。

話終つて會員各自隱し藝に座興を添へ極めて盛會裡に九時散會した。來會者は次の通りであつた。

二宮禎氏（大日本製糖株式會社）、高橋龍太郎氏（大日本麥酒株式會社常務取締役）、岡本賢康氏（大日本麥酒株式會社）、富永竹夫氏（辯護士）、村上丈二氏（大日本麥酒株式會社）並に本會普通會員として千里山學舍に學びつつある學生十二名。

終りに本會顧問高橋龍太郎氏の御好意に對し厚く感謝する次第である。（西村君報）

東北北海道鄕友會例會

奥羽並に北海道出身者よりなる東北北海道鄕友會員は去月十七日午後零時半阪急前に集合し香坂中佐及び武內講師（大立目講師は缺席）を中心にして梅田を出發し箕面に赴いた。一行は本三增子君、本一阿部君、中澤君、豫二遠藤君で箕面瀧にて小憩、琴の家にて例會を開き、こもごも漫談を交へ午後九時過ぎ散會した。（增子君報）

（第一三頁より續く）

せられ、本年に至り助役に就任、市長を助けて復興に多事なる市政にたづさはつてゐられる。性極めて溫厚篤實、言行常に一致し、事に當つて至誠を以て貫徹せずんば止まざる底の風格あり、橫濱市の氏に俟つ所甚だ大なるものあるも亦頷かれる所である。

筆者は氏の全風格を傳へんとするの無謀を企てんとするものではないが叙上の短章が氏を害はざらむことを祈るものである。擱筆するに當り氏の自愛益加はらむことを祈り、氏に期待するもの尠からざるを告げるものである

（第六頁より續く）

受けんと欲する時には何うしても男女共學の制度に依らなければならない。戰後獨逸に於ては共和政府の樹立と共に選擧法の改正と成り女子の參政權を認られしと共に多數の女代議士が選擧せられしを初めとして女辯護士、女博士、女裁判官や女行政官といふ者が次第に增加して來て女子にして大學教育を受けて社會的榮位を獲んと志ざす人人も增加し單に文學や哲學等に限る事なく法律や經濟自然科學卽ち數學や物理學、醫學等を學ぶ婦女學生が仲仲多く見受けられるに至つた。實際婦女學生にして六ヶ敷法律學科の演習例へば憲法行政法を初めとして民法や商法の演習更に經濟學の演習の時間等に動もすれば男子の學生にも勝る明快な答辯を爲して教授を初め學生をして驚異の眼を見張らしめる事が度度あるのは實に講堂內の偉觀とも謂ふ可きであらう我國では男女共學と云へば直ちに道德上の問題や風紀に關して憂慮せらるる事が多いが歐洲に於ては道德的見解の立場が餘程我國とは異なると同時に又兩性が小兒の時代から早く習慣的に訓練せられて居るから急激な變化を來す事もなく又問題とせらるる事も比較的少ない樣である。然し歐洲と我國とは全然道德的觀念の標準を異にし又風俗習慣にも根本的に多大の相違があるから歐洲の制度をその儘に何等顧みる事なくして移入せんとする者ありとせば之れは大いに考慮せなければならない。中には實際賞讃出來ない多くの事實を觀ずる場合も決して少くはないのである。されば最近獨逸の文政當局者及び教育者間に女子專門の大學教育機關設立の必要を屢屢力說する人人があるのを新聞紙に見受けたが恐らく近き將來に於て實現せらるる事であらう。斯くして我國の現制度が却つて獨逸よりも進步して居た制度であると語り得る時代が或は來るかも知れない。要するに我が國の人人が一も二も西洋人のする事は偉い事で歐洲の制度は何でも模倣せなければならないと云ふ樣な所謂「歐米崇拜萬能主義」に惑溺する事はもう我國に於ては止めて貰ひ度い。言ふ迄もなく歐米に學ぶ可き點も未だ多くある。殊に物質文明の範圍に於てはそれが多いのであるが然し精神文明道德的思想等に於ては却つて東洋に於て歐米よりもより以上に秀でて居る點が決して少くないと信ずる。殊に戰後に於ける歐洲人の道德的節制の方面に於ては實に寒心す可き點が仲仲多くある樣で餘程識者の注意と警戒とを要する事だと思ふ。私は畢生の力を以て我が愛する祖國の同胞諸子に告げ度い。『歐米思想に心醉する事を止めよ。而して我國は我國としての淳風美俗を益益發展せしめて眞に我國獨自のシヤッフェン（創造）を行つて行く事が日本帝國國民としての世界に對する一大使命である』と。

獨逸に於ける女子教育に關する研究の材料として修學生の實情を觀ずるに一九二四年夏學期には全國二十四大學に於ける正規の女子大學生が七千四百九十三人なりしが一九二四年の冬學期には六千六百九十五人に減少せしが一九二五年の冬學期には再び七千五百三十九人に增加した之に聽講生、其他各研究室に於ける助手として研究に從事しつつある者を加算するならば更に莫大な數に上るであらう。今伯林大學に就て見るに、

	神學	醫學	法學	哲學（經濟政治なども含む）
一九二四年夏學期	九	二八三	五八	一〇
同冬學期	九	三一〇	七八	八

	男子	女子
一一二四	四	
八三五	一八	
二二六	一四	

であるがゲツチンゲン大學に於ける男女學生の比例を見れば左の如くである。

正規學生

科目	男子	女子
神學部	一一二四	四
法律經濟學部	八三五	一八
醫學部	二二六	一四
哲學部（文學部）及數學及自然科學部	一一二三	一五二
合計	二三〇八	一八八
聽講生	八〇	四一
總計	二三八八	二三九

（一九二五—二六年冬學期調査）

即ち右の表に依りて案ずるに男子學生の九分七厘が女子學生と成るのであるが之を全國的に觀れば約一割强が女子學生である。茲に一つ注目す可き事柄は此等女學生又は講聽生の中に既婚の婦人が可成り存在するといふ事である。即ち有識の婦人は假令結婚しても尙ほ大學に籍を置いて家事の餘暇を利用しては自己の特殊の研究を進め又常識の涵養に資せんと努めつつある事で流石に科學の國なる哉と感心せざるを得ない。

六

私は今迄度度正規學生と聽講生と云ふ言葉を使用したが之れに就て少しく說明する必要があるであらう。正規學生と云ふのは即ちStudentで眞個の大學入學の許可を受けて宣誓した者即ちImmatrikulationを爲した者である。其の宣誓式の如きは可成り崇嚴に執行せられラテン文字で書いた立派な入學證書を授けらるると同時に總長は自ら全部の宣誓せる新入學生に對して握手を與へられ此の瞬間から光輝あるステューデントとしての生活に入ると共に凡ての大學學生に與へられたる特權を享受するのである。

其の際尙ほステューデンテントカルテ（學生票）なるものが渡される。此れは學生が常に携帶す可きものであつて一種の身分證明書と云ふ可くそれには自分の寫眞が貼付せられて居る。而して此の學生票の效力は實に大なるもので多くの場合に種種の特權を有し少少の犯罪を爲しても警察や裁判所は直ちに之を處罰する事能はず其の場合には先づ大學內の審判所に於て判決せられ學生の資格を剝奪せられて後始めて普通裁判所に引渡されるのであつて此れ程迄も大學生の身分といふものは獨逸では尊重されて居るのである。此の大學內の審判所には眞實の老判事が居て學生の犯罪行爲に就て裁決して居るのである。此の中には留置檻禁場があつて輕罪の場合（例へば餘りに多量のビールを飲んで酩酊亂暴を街上にて爲し秩序安寧を犯したる如き場合）には數日間此の中に留置せられて謹愼を命ぜられるのであつて彼のビスマルクが未だ一學生としてゲツチンゲン大學に學生たりし頃には屢屢此の留置場の御厄介に成り當時その壁板に落書せる彼の自署が今では寶物として當地古物陳列館に保存せられて居る。ビスマークは一八三二年より一八三三年迄三學期間學生として此大學に在りしが當時誰か後世に彼が未曾有の大事業を成就する者たらん事を想像したであらう。人生變轉の跡亦眞に奇しき哉である。

正規學生には資格認定に依る者と入學試驗に依る者との二途がある。聽講生即ちGastzuhörerであつて此の兩者の間には資格待遇等に非常なる差異がある。然し納入す可き授業料や聽講料入學金等は全く同一である。

尙ほ學生票を有して居れば一般の所得稅等納稅の義務を免除せられる特典があつて之れは外國人に對しても同一である。然し此の場合には眞實本國よりの送金に依りて生活する旨の大使館の證明を必要とする之に反して聽講生に對しては一般稅務署の規定としては學生として取扱はず從つて納稅義務免除の特典等も適用せざるを原則とする由である。

尙ほ茲に獨逸綜合大學二十四校の學生數を擧ぐれば一九二四年夏學期に於て左の通りである。（但正規學生の外聽講生をも加算す）

ベルリン	＊一四〇四四
ボン	三一八七
ブラウンスベルグ	—
ブレスラウ	五四六四
エルランゲン	一五四二
フランクフルト	三三八二
フライブルヒ	三〇六四
ギーセン	一七七二
ゲツチンゲン	二四六六
グライスワルド	一一七九
ハレ	二七八二
ハンブルヒ	★二五五〇
ハイデルベルヒ	二五三九
イエーナ	★二一五三
キール	一八一六
ケルン	五二二五
ケーニッヒスベルヒ	一八二〇
ライプチッヒ	五三八八
マーブルヒ	二一九九
ミュンヘン	七五六四
ミュンスター	二九二六
ロースストック	九七六
チュービンゲン	二四九九
ヴュルツブルグ	二五五二

此の外に單科大學として工科や商科に屬するTechnisepehochschule及びHandelshochschuleなるものが存在するが之れは茲に省略致した次第である。

註　＊印は一九二四—二五年に至る各學期の統計に據る。
　　★印は一九二五年夏學期の統計に據る。

七

次に私は外國人の入學に關して少しく手續をお話して置き度いと思ふ。前にも述べた通り墺太利人や獨逸語を母國語とする國民は凡て獨逸國內人同樣の待遇を以て取扱はれるが其れ以外の外國人は原則として入學試驗を施行せられる事となつて居て其の入學資格は獨逸の高等中學校卒業と同等以上の力ある事を必要條件とする。入學試驗の課目は私の經驗に依れば獨逸語の書取、聽取、作文、會話で其の外自分の專門的研究學科に就て數箇のテーマを出されて質問せられるのであつて之れが全部無事に合格すればやがて入學許可の通知が來て定められたる日に宣誓式に臨まねばならない。若しも此の入學試驗に不合格に終るが如き事あらば大學より『向ふ一學期間丈け

聽講生として入學する事を許可するから此の間に外國人獨逸語研究所（Deutsche Institut für Ausländer）（此れは伯林大學に存在するもので特に外國人の獨逸研究者の爲めに設置せられたるものである。）に於て語學を充分に勉强せられるを可なりとせん』と云ふ通知が送られ若しも此の研究所の學期末の試驗に及第すれば大學の方も今度は無試驗で入學を許可せられるのである。

さて大學に入學を志願せんと欲する場合には豫じめ次の手續を必要とする。

（一）入學願書　入學の希望學部を指定し提出願書の宛名は其所屬聯邦の文部大臣とし例へば伯林大學ならばプロイセンの文部大臣ハイデルベルヒならば、バーデン州、ミュンヘンならばバイエルン州の文部大臣宛とするのである。

（二）履歷書　自筆の履歷書で通常日本に於けると書式は類似して居るが其の確實にして相違無き事を保證するが爲に大使館の證明を必要とする。

（三）出身學校の卒業證書　出身大學若くは高等學校の卒業證書原本と其獨譯せるものに矢張り大使館の證明を必要とするのである。從來は若しも此の卒業證書原本を所持せざる場合には確實なる大使館の證明を以て之に代へる事が出來たのであるが最近に至つて非常に嚴重と成り是非原本を提出す可く要求せられ若しも然らざる場合には種種の面倒を見ねはならない實狀となつて居るから將來獨逸大學に於て研究せん事を希望する方がありとすれば必ず卒業證書を携帶して渡歐せられん事をお勸め致すのである。過日も伯林大學の事務官の話に『日本人は何故に自己の卒業證書原本を所持して來て提出せないのであらうか。眞實學修せる者ならば確に所有せらるる筈であるのに』とさも一種の疑心さえも有して居る樣な態度で語られしを聞いて一層右の感を强くした次第である。勿論此の卒業證書の原本は間も無く返還せられるのである。

（四）學資金に關する證明　何處より學資金は支給せられて居て學修に差支なきや否やに就ての保證で是れにも大使館の證明を受けなければならない。

（五）旅券及び警察證明書

（六）半身手札形の自己の寫眞　以上の書式を纏めて提出すればそれは全部一旦各聯邦洲の文部省に送附せられ嚴重なる詮衡が行はれて諾否決定する迄には少くとも四週間以上の日時を要し時には二ヶ月以上もかかる事があるから成る可く期日に遲れない樣に寧ろ出來る丈け速く提出するのを得策とするであらう。而して外國人の提出期日は夏學期にありては遲くとも四月一日迄冬學期にありては十月一日迄とし（以上伯林大學）それに遲るれば總長の特別の認可を受けなければ提出は不可能である。

八

終りに臨んでドクトル試驗に就て一言を申述べさして戴き度い。

日本に於ても大學を卒業する迄に各學部及專修學科に依りて各其年限を異にして居ると同樣に、獨逸でもドクトルアルバイトを提出し得る資格を受くる迄の年限は各學部に於て異にして醫科や工科等實驗科學の方面では法科や文科に比して長年月を要するは當然の理であるが今茲に主として法科や經濟科方面の部類に就て看るに從來は通則として六學期（三ヶ年）間に所定の演習論文や筆記試驗に通過して居れば受驗資格の効力發生を認知せられたのであるが然し此の六ゼメスターは最少限度で特別の場合を除く外此の最少期限の後に於てドクトル試驗に應じ且つ完成する人は餘程稀れであり多くの人人は此の時に先づ高等文官試驗や司法官試驗を受けて之れに及第すれば徐ろに實地と理論とを綜合してドクトル論文の作製に取り係るといふのが普通の狀態であつたが現在でも矢張りそれに變りはないのであつて、多くの學生の中には十ゼメスター、中には十四ゼメスターも居るが未だに可然問題が見付からないと云つて而も倦まず撓まずこつこつと勉强して居る人人が仲仲少く無い。然るに最近一九二三年二月の獨逸全國大學ドクトル試驗令改正規則に依りて Staatswissenschaft（政治、經濟學科）のドクトル試驗に就て根本的に大改革が行はれ從來よりも非常に嚴重となり又複雜なる規則が設けられる事となつた。卽ち是れ迄は前にも述べた通り六ゼメスターの學修後所定の課目を履修し且つ演習等完全に終了し居れば教授の認容を得てテーマ（問題）を得れば直ちにドクトル論文を提出し得たのであるが改正試驗規則に據れば六ゼメスターの後に經濟學部の學生は一應經濟學に關する國家試驗 Diplom Volkswirtschaft を受けて此の資格を享受しなければならない事になつた。此の經濟學のディプローム の資格試驗を受けんと欲する者は右六ゼメスター中に既に二つの經濟學範圍に關する演習論文及び各一つ宛の公法並に私法に關する演習論文を提出して通過せる事を前提條件とする。尙ほ必修課目及び選擇課目の必要課目數丈け、全部履修したる事の教授の證明を要する事は言ふ迄も無い事である。斯くして右の各條件が完備して居れば經濟學のディプローム試驗を受ける事が出來るのであるが其試驗は筆記試驗と口述試驗の二つより成立して居る。筆記試驗としては約五週間位の期間を與へられて一つの宿題論文を書かせられる。其の經濟學及び公法及民法に關する各一つ宛の筆記試驗が行はれ若しも此の筆記試驗に合格し且右宿題論文が試驗委員會にて通過すれば所定の期日に口述試驗が行はれる事と成るのである。而して口述試驗の試驗課目と成れるものはゲッチンゲン大學に於ては左の如くである。（此の課目は各大學に於て取捨選擇多少の差違あるのであるが素より大體に於て同一である。）

A　必修課目

一　經濟學總論及各論（貨幣銀行論取引所論等をも含む）

二　特殊經濟學（經濟政策、社會政策）及び經濟史並に經濟學史

三　財政學

四　統計學

五　私經濟學及企業論（會計學、商業經營學をも含む）

六　經濟上に重要なる民法及び商法の諸問題

七　一般國家學、國法學、憲法及行政法、租稅法、國際公法及國際私法の一部

B　選擇課目

經濟地理、救貧制度及社會救濟、勞働法、

保險學、組合論、工藝學、農政學、國際公法、工業法、近世史、經濟史、哲學

右選擇課目は其の二つを選擇する事に成つて居る。

如斯して試驗の全部に就て無事に及第する事を得ればデイプローム・フォルクスウィルトシャフトの資格を與へられて就職等には最早やそれで充分であるが更にドクトルの學位を獲んと欲する人はそれより專ら二ゼメスター（一ヶ年）將來のドクトル論文の製作に關する問題に就て專ら研究し、愈教授の認可を得れば二ゼメスターの後出來上つた論文を提出して審査を受くる事に成るのであるが豫定通りに進捗せしむる事は餘程困難の模樣であり況して外國人に取つては言葉の關係上より以上の苦痛を負はなければならない。米國の或大學に於ては日本の大學卒業生は自國の大學卒業生と同等なる資格あるものと認定して容易にドクトルの稱號を授ける寛大さを有する所もある由であるが現在の獨逸大學に於ては就中古來著名なる大學に於ては其の大學授與のドクトル學位の權威を失はざらんが爲めに非常に嚴格で外國人なりとして特別の待遇や取扱に與る事は殆んど無いので獨逸大學生と同樣の受驗規定に依つて取扱はれるのである。此の點に於ては戰前に於ては我國の大學卒業者等には種種の除外例的恩惠的内規が適用せられた事もあつた由であるが現在では全く不可能である。世界ではドクトルと申しデイプロームと申せば其の價値内容に於て何れも同樣なるかの如くに感ずる人があるかも知れないがそれは大きな錯誤であつて獨逸で官吏や社員等を採用する場合に「何何大學のドクトル又はデイプローム所有者を求む。」「何何大學のドクトル、デイプローム所有者は御斷りする。」と云ふ採用廣告を諸所で散見するのを見ても思ひ半ばに過ぎるものがあるであらう。例へば伯林大學やライプチッヒ大學、ゲッチンゲン大學等のドクトルやデイプロームは試驗が他の大學に比して嚴重であるに比例して一般社會に非常に尊重されて居る。殊に保險學のデイプロームはゲッチンゲン大學のが最も歴史的に有名であるのみならず現在に於ても獨逸國内に於ては勿論全世界に於て最も尊重せられて居るのである。故に同大學の保險ゼミナールには内國人のみならず多數の外國人の研究者も在學し此等の外國人の殆んど全部は外國でドクトルを既に所有し而して官廳又は會社等より派遣せられて此のデイプロームを享受せんが爲めに來て居るのである。何れ此の保險に關するゼミナール及び其の他の研究機關に就ては他日稿を改めて說くであらう。

さて獨逸の學生と日本の學生と比較して何れが優れて居り又劣つて居るであらうかと云ふ事は一朝一夕に斷定する事は仲仲困難である。が能力の點から觀て又智的方面から觀察して日本の學生は一人一人を比較するならば決して彼等に劣る者で無いと私は信ずる。東西古今に通じての該博なる日本學生の智識に對しては多くの獨逸學生は容易に追隨し得ない所であると思ふ。例へば世界史にしても世界地理にしても彼等一般の智識は餘程淺薄であり時時我等さへも驚く事があるが然し彼等には一部分一部分を非常に熱心に且つ深く研究して不撓休まないと云ふ人人が多い。

實際彼等の中には數十人中に一人又は數萬人中に一人の非常なる天才があり又は計り知る可からざるの努力を以て、自由に若草の初夏に伸び行くが如くに思ふ存分に伸び行きて前人未踏の境を開拓し行く事が出來る人がある茲に自由主義的教育方針の特徴も現はれて來るのであるが我國の定型主義的教育の效果は常識の完成といふ點に就ては餘程成功して居るものと言ひ得るであらうが然しそれと同時に又深遠なる奥行が足りないといふ事は爭はれぬ事實である。

而も我我は決して悲觀するには及ばない。實際我我日本人が歐州及び歐州文化に對して所有して居る程の一般的理解が歐州人に在るかと云ふとそれは實に哀れな位である。然し今日迄の日本は單に彼等の文化を模倣し吸收するに過ぎ無かつた。徒らに他國の文化を蒐めて誇り之を眞に自己の血と成し肉と成して創造して行く事卽ちシャッフェン（Schaffen）するの勇氣に乏しく且つ未だ其の境域に達し得なかつた。支那の文化をも間違ひ無く能く理解し得る唯一の國民であり。印度文化に對しても能く心身の融合を見出し歐州の文化に對しても短日月の間に可驚速度を以て吸收する事が出來たが然し今日之れを基礎として果して眞に日本獨自の文化を創造しつつあるであらうか？

我等は此の點に就て大いに省みなければならないと思ふ。模倣の時代は既に過ぎた。我等は何うしても創造の時代を造り出さなければならない。此れ實に我等日本國民としての最大の責務であり殊に將來の日本を背負つて立つ可き我等青年の大きなる使命である。

研究の自由と享受性の普通化とを加へて現在の我國大學教育をより意義あるものたらしむる事は我國將來の文化發展上に至大の貢獻を齎らす所以であると思ふ。話は再び前に戻るが前にも述べた通り獨逸大學に於ては日本や米國一部の大學制度に見る樣な卒業と云ふ事は無く唯教授の講義を自發的に聽講して只將來一定の國家試驗を受け又はドクトルの學位を獲んと欲する人のみが所定の試驗を受けるのであつて從つて試驗を受けなければ肩書も得ないし又資格も得ない譯であつてその試驗には最少の期限はあるがそれより後は何時受驗してもそれは本人の自由選擇に依るのであつて從つて準備が出來上らなければ何學期でも殘る事となり在學期間が長くなるの傾向ある事は明らかで此の點は餘程不經濟である從つて學生は我國の學生に比して餘程呑氣である樣に見受けられる。

而して今茲に自一九二三年冬ゼメスター至一九二四年夏ゼメスター一ヶ年間の統計に依りて同期間に於ける獨逸全國の大學に於て授與せられたるドクトルの數を見るに次の如くである。

大學名	神學 新	神學 舊	法律政治經濟學	醫學	哲學	自然科學	合計
ベルリン	四	—	三	二四	二七	—	五八
ボン	二	二	二	四	五	—	一五
ブレスラウ	二	—	—	一三	一〇	—	二五
ルンベルグ	—	—	—	—	—	—	—
エルランゲン	一	—	—	—	—	—	—
フランクフルト	—	—	三	一〇	三	一	一七

フライブルグ	—	一	二	一五
ギーセン	—	—	一	一四
ゲッチンゲン	一	—	二	二三
グラスフルト	三	—	一	一三
ハレ	一	—	七	一一
ハインブルヒ	—	—	一	二二
ルベイデ	三	一	一〇	二五
ナイエー	—	—	一	一三
キール	一	—	一〇	一七
ケルン	—	—	四	一六
ケーニッヒスベルヒ	—	—	一	一二
ライプチッヒ	一	—	五	二五
マールブルヒ	一	—	四	一四
ミュンヘン	—	—	一二	二三
ミュンスター	—	—	二	一〇
ロストック	—	—	五	八
チュービンゲン	一	—	三	一三
ヴェルツブルヒ	—	—	一	三
合計	一九	四	三七	一六四

一四〇　四六　四一三

之を七萬以上の全國大學學生の數に比較して見ると寔に僅少なるものにして其の成功の決して容易で無い事を知る事が出來るであらう。殊に戰後數年間は世界大戰中の出征學生の爲めに餘程の恩典を授けてドクトル論文の通過を容易にせし傾向があり一時ドクトル濫造の風評さえ識者の間に唱へられしが斯くては獨逸學問の權威を失墜するものなりとして前述の通りに試驗法の根本的改革と成り凡ての經過規程を撤廢して戰前の規定に復歸せしめ更に追加規程を以て一層嚴重にせられたのである。就中其の最も嚴重を加へたるは國家學科(卽ち政治經濟學部)で既に說述せし通り受驗資格發の期間を六ゼメスター(三年)制度より八ゼメスター(四年)制度に改められ加之三年の終りにデイプローム試驗を施行せられて之に通過せざればドクトル試驗を受くるの資格を得ざるに至つたのは受驗者に取つては非常に苦痛であるが又學位の價値を高める爲めには尤もなる事であると思ふ。

從來全く自由主義の上に立つて居た獨逸の大學制度が最近に至りて次第に拘束主義を加味して來たのも面白き現象で恰も東西思想の逆轉化の如き觀が無いでもない。そして一より十迄西洋の制度、歐米思想を以て最高無缺の如くに崇拜して居る我國の歐米心醉者、日に增し博士濫造で既に博士の價値に一種の疑惑をさえ國民一般に感ぜしめんとして居る我國の或る大學、又は試驗制度撤廢を高調して徒らに自由放逸の夢に耽らんとし既に心ある人に學問低下の兆をさえ認められんとして居る一部の人人、に少しく此の新らしき獨逸學界の傾向を示して覺醒の資料と致してやり度い氣がする。

私が未だ學生で東京に居た時法科の某教授が次の如く講義の時間に說明された事があつた『日本の大學、日本の社會では凡ての思想でも研究でも約十年間西洋と比較して遲れて居る觀がある。彼の地で十年以前に最も盛んに研究せられ又社會一般に問題とせられた事が十年以後に日本に於て初めて非常な熱狂(Begeiaterung)を以て社會一般にもてはやされて居る。彼の地では既に大風一過の後の如く、既に下火となつて何人も餘り顧みなくなつた事が我國では恰も金科玉條の如くにもてはやされて居る。それ丈け我國の文化は遲れて居る。誠に情ない悲しい事である。是れ卽ち我國民一般に創造的精神が乏しい所以である』と。

同教授の言を今新に思出して私も坐ろに同感を覺えずには居られない。實際多くの事柄が左樣ではあるまいか。我國の今日の思想界に於てはマルクスの研究、社會主義、コンムニスムス等を口にせざれば新人に非ずとさえ世人は思つて居る樣であるしかし現在歐州でマルクスの研究やコンムニスムスの研究等を我國の樣に騷いで居る所が何處にあるであらうか。マルクスの生地である獨逸にマルクス主義の反對者さへも少からず見出され、ロシヤのコンムニスムス等も次第に影を薄くしつつある現狀である。私は我が國民諸君に切にお願ひし度い。もつと眞摯に、徒に風に乘じて荒野を渡る樣でなく、心から眞面目に凡てを研究し、果してそれが我國情に適するか否かの根本問題を先づ考へ而して後徐ろに實行に着手して貫ひ度い。既に模倣の時代は過ぎた。何うしても創造の時代、世界に於ける日本文化建設の大目的を確立して、總ての方面に向つて努力奮勵して戴き度いのである。是れ將來の我等日本國民としての最も大きな人類への使命ではあるまいか。此の自覺を以て各自が衷心より努力する時に我等の理想は必ずや實現せられるであらう。

千里山俳壇　朝冷選

□　豫一E　平井三朗

うたた寢を搖り起されし夜長哉
旅人に犬吠えたつる秋の暮
提燈の燈に手をかざす霜夜哉

□　豫一C　金子飛來

鼻風邪に鼻つまらせつ秋の風
コスモスの咲き初めたる校舍哉
コスモスの高低に皆咲きにけり
道端の稻より出でし蝶々哉
夕野分入口せまき町の寺

□　辰巳南甫

菰編むや藁の中なる蟲の聲
曉雲の映え極めけり秋の水
曉きの火事が星河を焦しけり
陶枕に泣きたき思ひこらへけり
陶枕や夜毎の夢を樂しうす
障子入れに廻る二階や星月夜
遠花火濱の尖りに揚りけり
畫花火茄子を切りに廻る時
穴釣りに冷き潮の滿ちて來し
猛り贈つつと林をぬけにけり
燈を消すや夜學にかろき眼の疲れ

九月十八日同人社主催子規忌にて

還曆の魂を迎えつ獺祭忌
埋髮塔の軸を前なる子規忌哉

追加吟　朝冷

夕しぐれに殘る天惠明り哉
去ぬ人に庭木を鳴らすしぐれ哉

□當季雜詠投稿歡迎
□封皮には必ず「千里山俳句」と朱記の事
□送稿先　大阪市東淀川區中津濱通五丁目
有田朝冷宛

千里山歌壇　編輯局選

△新秋餘影　　高原草路

町中の中學校の門ざはのこの大木にむれ鳴く小鳥
かづとなくふとりむるらし町なかのこの大木にかしましなくも
久ふしてわがたづねたる林路に出でたるごとし小鳥の聲す
なきなきてとびや交ふらしひとむれの小鳥ひそけく枝ゆするなり
戀ゆえとかなしき秋よみちのべの草にもふして泣かましわれは
さみしさのやる方なくてしのびかにうたへどなどかいえぜぬこころ
「いちぢくの花にかも似るさみしさよ」と世をはかなみて女死せる日
なにがなし心みちぜずおほろかにわが魂よびてさけびもすれど
この心なにかあらむ戀ならでひそかに人のことを思へり
かの道の易者いへりし緣と言ふことしきりなり今日も思へる

△秋　　鈴木武夫

ひとしきり鳴きては消ゆる虫の聲われに迫りて秋は來にけり
虫の聲あるかなきかに聞ゆるはあわれなるかな秋來る日
今更に古き戀など顧り見つ九月半ばの初秋のころ

△のみのあと　　今山生

いとし子のましろ手足にのみのあとさすりながらにのみを惡むも
のみとると我がいとし子ははだかにしのみを探れどのみはとれずて
のみとり粉しとどりふしにこのあさけ我がいとし子のはれしあと見ゆ

△秋　　霜村生

秋晩れて落葉の音に聽き入りつ生きむ努力に飽きを覺ゆる

The Kansai University Bulletin

Published Monthly By

The Kansai University Press

No. 54　　*November, 1927.*

LEADING FEATURES OF CONTENTS

University Life in Germany ..... By Dr. S. Noguchi, Lecturer of the University.
Ratio of Circumference of Circle to Its Diameter.....by Prof. S. Kawamura.
Universiry News.
Alumni News—Mr. K. Kanematsu, Alumnus—Mr. S. Tamura, Alumnus. Notes on the University Festival.
Students' Activities.
Miscellanea.
Illustrations—The Second Annual "University Festival" at Senriyama—Social Gathering of Teaching Staff & Officers—Dr. Takayanagi at University—Exhibitions—Judicial Exercises by Law Students (July System)—"No" Performance by Students—Osaka Foreign Language School & Ichioka Middle School Boys Winning the Day at University Festival—Indian Dance by the Preparatory School Boys—Indian Dance by the Students of the Special Department—Mr. K. Kanematsu, Alumnus—Mr. S. Tamura, Alumnus—Signatures of Tokyo Alumni Present at the Autumnnal Social Gatherring—Base Ball Team—Equestrial Party.

謹告

拜啓益御健勝奉慶賀候陳ハ去月二十四日ノ理事會ニ於テ理事喜多村桂一郎氏ヲ專務理事ニ互選致シ同氏ニハ御受諾御就任相成候ニ付然樣御承知被下度此段御通知申上候　敬具

昭和二年十一月十一日

財團法人關西大學總理事　山岡順太郎

校友各位

大正十一年六月十五日創刊
昭和二年十一月十三日印刷
昭和二年十一月十五日發行

編輯兼發行人　大阪市此花區上福島北二丁目　關西大學學報局　宮島綱男
印刷者　大阪市西區土佐堀通四丁目五番地　飯田彌之助
印刷所　大阪市西區土佐堀通四丁目五番地　株式會社　三有社
發行所　大阪市此花區上福島北二丁目　關西大學學報局

不許複製

福島學舍　關西大學　電話土佐堀（一〇四九五五七〇）
大阪市外千里山
千里山學舍　關西大學　電話吹田一二三

校友諸氏に告ぐ

昭和二年度關西大學校友會會員名簿は本月末日愈出來致す筈に相成居候間御入用の方は實費金貳拾五錢相添へ左記宛て御申込被下度候

昭和二年十一月

大阪市此花區上福島

關西大學校友會名簿係

懸賞論文審査延期

豫て本號誌上にて發表の豫定であつた本誌創刊五周年記念懸賞論文は應募者意外に多數なりし爲め審査延引し遂に本號に間に合はざる爲審査結果の發表を一時延期いたします。

十二月號休刊

例年の通り本誌十二月號は休刊し第四十五號は昭和三年一月一日附を以て十二月末に發行することと致します

關西大學校友ソノ他關係者各位へ

◎千里山學報維持費トシテ、校友ソノ他關係者各位カラ續續御出捐ニ預リ有難ク幾重ニモ御禮申上ゲマス。

何時モ申上ゲテキマス通リ、出來ルナラバ毎號無料デ御配付申上ゲルノガ本意デアリマスガ、今ノトコロドウシテモ各位ノ御援助ニ俟タナケレバ、到底發行ヲ續ケテ行クコトノ出來ヌ狀態ニアリマスノデ、遺憾ナガラ不遠慮ニト言フヨリモ寧ロ進ンデ御寄捐ヲ仰イデキル次第、何卒惡シカラズ御諒恕ヲ願ヒマス。

◎金額ハ各位ノ御志ニ委セル外ゴザイマセンガ、大體年額貳圓位御寄捐願ヘマスレバ收支相償フ旨申添ヘテ置キマス。但シ集金郵便ニテ御拂込下サル方ハ勝手ナガラ一年半分若クハソレ以上トシテ金額參圓以上ヲ御申込ミ願ヒマス。

◎從來御出捐願ヘナカツタ方ニ、コノ際何分ノ御援助ヲ御願ヒ申シ上ゲマス。ソシテ新タニ御出捐下サル方ハ、御手數デスガ左ノ申込書ヲ御切リ取リ下サイマシテ、金額ナリ拂込方法ナリ適宜御書入ノ上御送付願ヒ上マス。

◎尙ホ、一年以上繼續御送申上ゲテ井ル方デ、今尙ホ御出捐ガナク、且ツ維持費ニ付テ何等ノ御通報ニモ接シナイ方ハ、或ハ送付先ニ現住サレナイノデハナイカト存ジマスカラ、今後發送ヲ見合セルコトニ致シマス。

昭和二年十一月　　關西大學學報局

千里山學報維持費拂込申込書

住所

年度　　科　　貴

名

金額

一金

拂込方法

振替貯金又ハ郵便爲替

集金郵便

（何れか一方を抹消して下さい）

會計組織立案
會計監査鑑定
株式會社檢査役
會社商店顧問
企業經營相談
事業繼承合併
增資減資解散
支店出張所監査
事業整理清算
官署提出會計書類
會計稅務相談
商事調停計算人
破產管財人及補助
巡回記帳決算
其他會計事務一切

事務懇切、秘密嚴守

會計士 谷岡登計理事務所

大阪市北區堂ビル二〇七號A室
電話北五八九〇番
振替大阪七九六〇一番

御影事務所
兵庫縣武庫郡住吉村濱新田九三四
電話御影六八〇番